

4. 地域・社会参画について

(1) 社会的活動の参加状況と参加意向

問8. あなたが、(1)現在、行っている地域などでの社会的な活動はどれですか。また、(2)今後、行ってみたい活動はどれですか。(1)(2)とも、複数回答可)

現在行っている社会的な活動は、「自治会、まちづくりなどの地域活動」が最も多い。今後行ってみたい活動では、「文化、スポーツ、教養などのグループ活動」、「セミナー、講座などを受講したりする生涯学習活動」が多い。また、現在行っている活動が特になし人が約半数を占めている。

【全体】

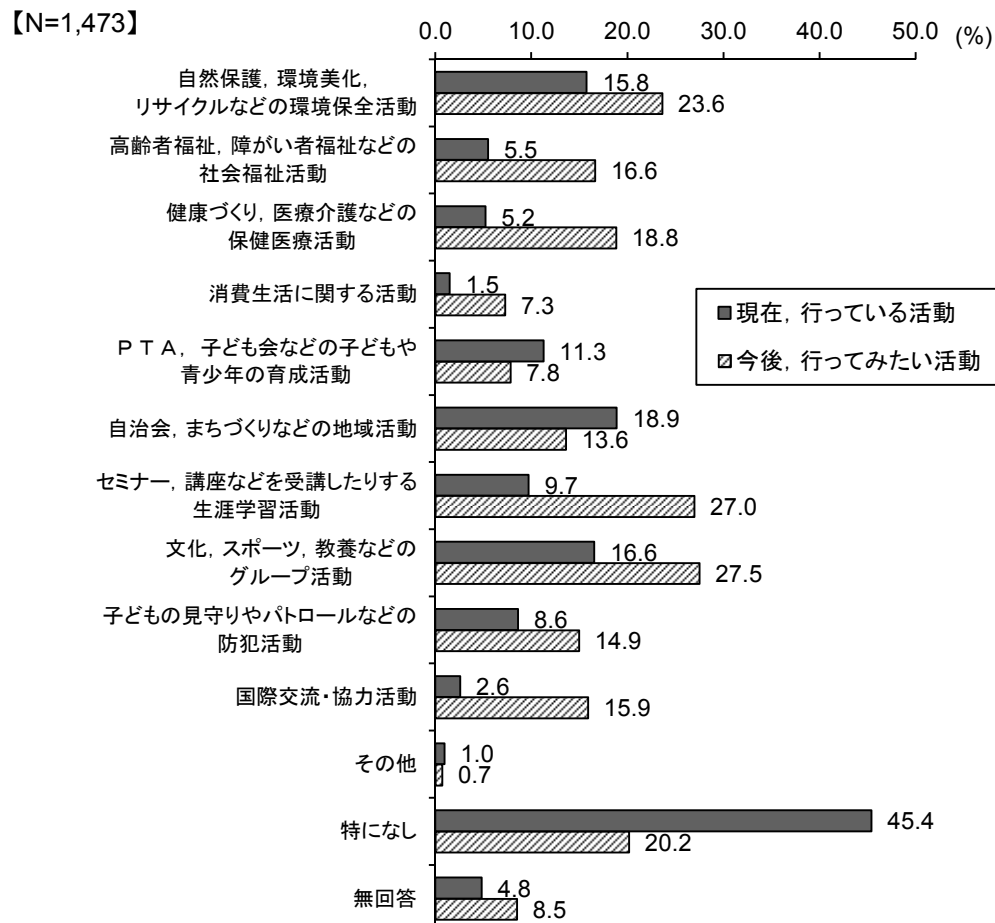
1) 現在行っている活動(参加状況)

現在、行っている活動は、「特になし」が45.4%と最も高く、次いで「自治会、まちづくりなどの地域活動」が18.9%、「文化、スポーツ、教養などのグループ活動」が16.6%と続いている。

2) 今後行ってみたい活動(参加意向)

今後、行ってみたい活動は、「文化、スポーツ、教養などのグループ活動」が27.5%と最も高く、次いで「セミナー、講座などを受講したりする生涯学習活動」が27.0%、「自然保護、環境美化、リサイクルなどの環境保全活動」が23.6%と続いている。

社会的活動の参加状況と参加意向〈複数回答可〉【全体】



【性別】

現在行っている社会的な活動が「特になし」は、男性が女性よりもやや多い。今後行ってみたい社会的な活動は、男性は「自然保護、環境美化、リサイクルなどの環境保全活動」、女性は「セミナー、講座などを受講したりする生涯学習活動」が最も多い。

1) 現在行っている活動(参加状況)

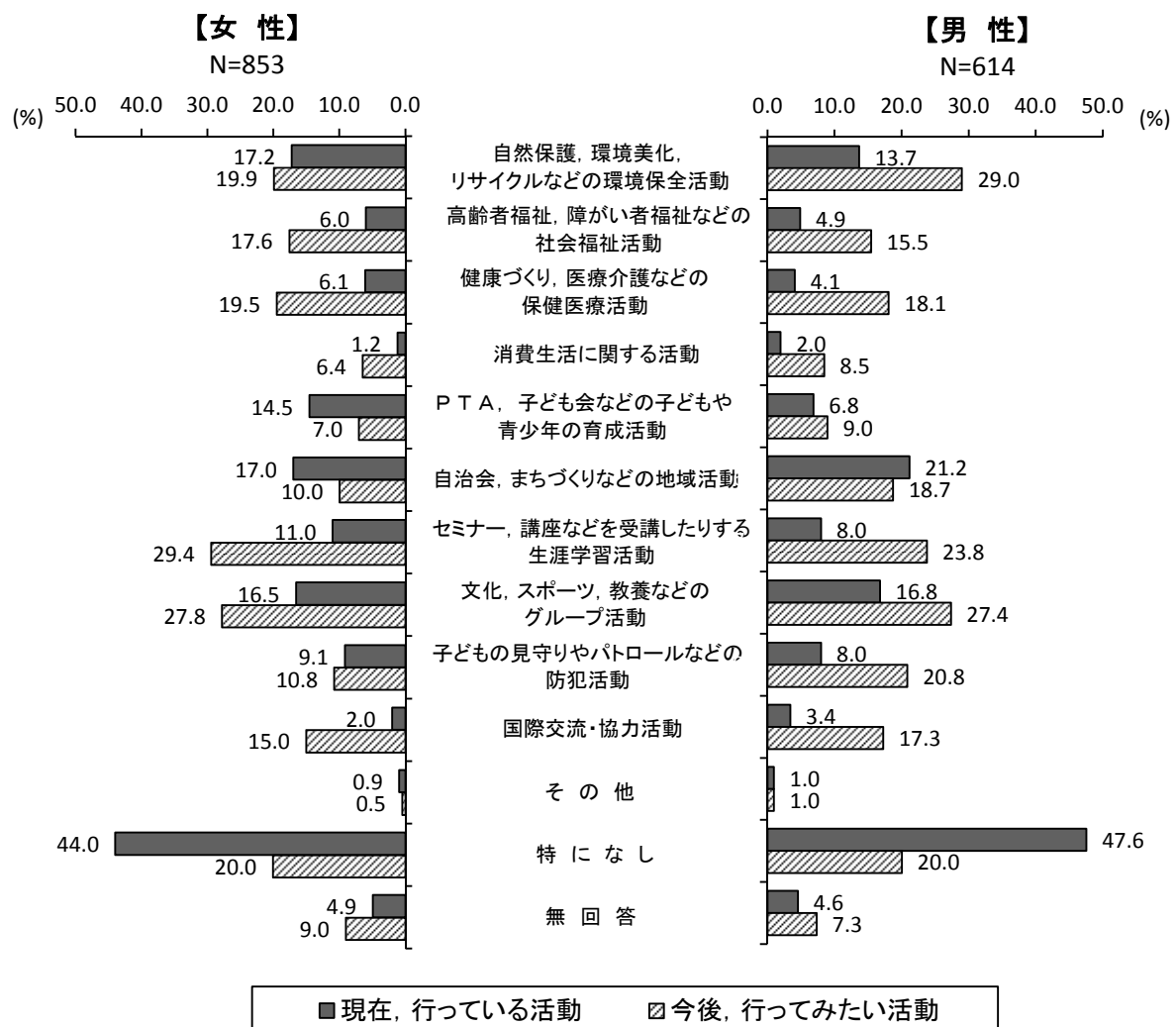
現在、行っている社会的な活動は、男女ともに「特になし」が最も高く4割を超えている。次いで、女性では、「自然保護、環境美化、リサイクルなどの環境保全活動」が17.2%、「自治会、まちづくりなどの地域活動」が17.0%と続き、男性は「自治会、まちづくりなどの地域活動」が21.2%、「文化、スポーツ、教養などのグループ活動」が16.8%と続いている。

2) 今後行ってみたい活動(参加意向)

今後、行ってみたい活動は、女性では「セミナー、講座などを受講したりする生涯学習活動」が29.4%と最多で、「文化、スポーツ、教養などのグループ活動」が27.8%、「自然保護、環境美化、リサイクルなどの環境保全活動」が19.9%と続く。

男性では「自然保護、環境美化、リサイクルなどの環境保全活動」が29.0%と最多で、「文化、スポーツ、教養などのグループ活動」が27.4%、「セミナー、講座などを受講したりする生涯学習活動」が23.8%と続いている。

社会的活動の参加状況と参加意向〈複数回答可〉【性別】



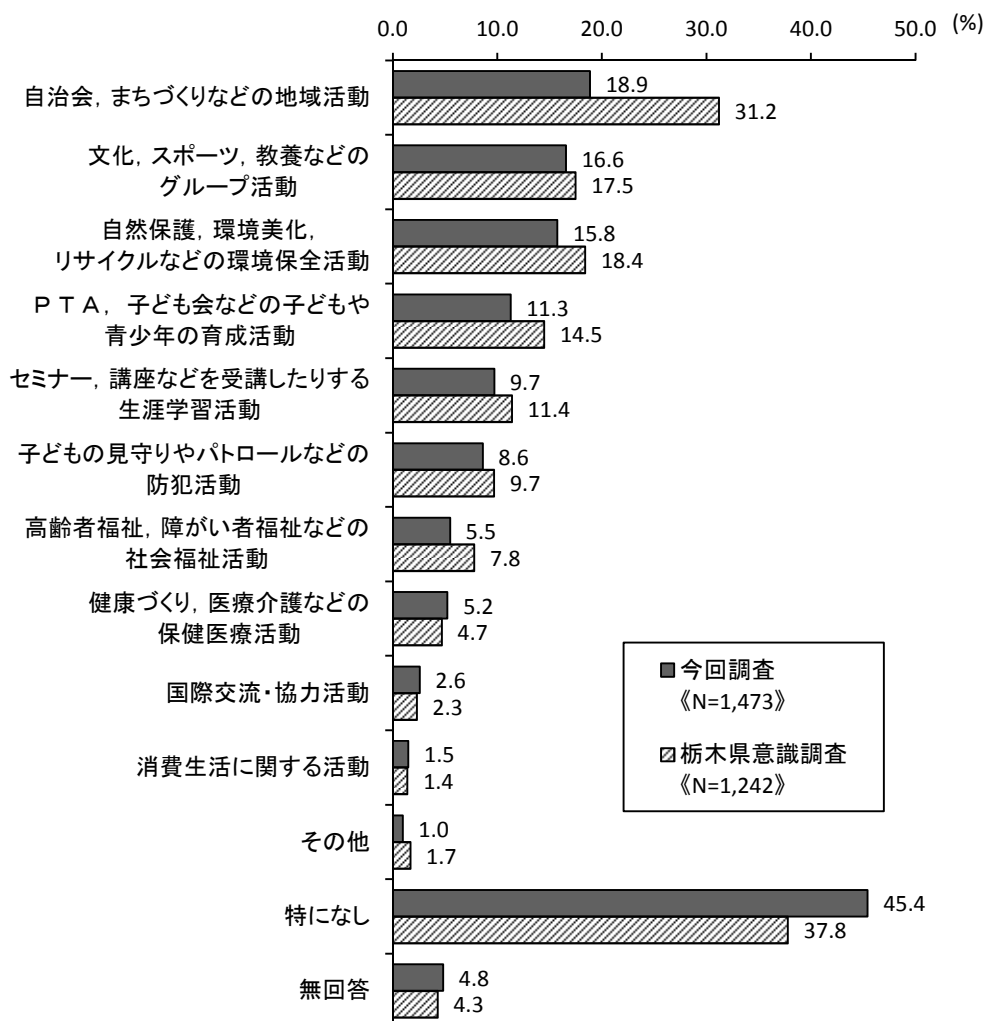
【栃木県意識調査との比較】

現在行っている社会的な活動について、栃木県意識調査と比べると、ほぼ全ての項目において今回調査は栃木県意識調査よりも参加状況が下回っている。特に「自治会、まちづくりなどの地域活動」への参加状況がかなり低くなっている。

・現在行っている活動

現在行っている社会的な活動について、今回調査は全体として栃木県意識調査よりも参加状況が低くなっている。特に「自治会、まちづくりなどの地域活動」では12.3ポイント低くなっている。反対に、「特になし」では今回調査が栃木県意識調査よりも7.6ポイント高い。

社会的活動の参加状況〈複数回答可〉【今回調査・栃木県意識調査】



(2) 社会的活動に参加していない理由

問8-1. あなたが現在、社会的な活動に参加していない主な理由は何ですか？

現在社会的な活動に参加していない理由は、男女とも「仕事が忙しく時間がないから」が最も多くなっている。〈2つまで回答可〉

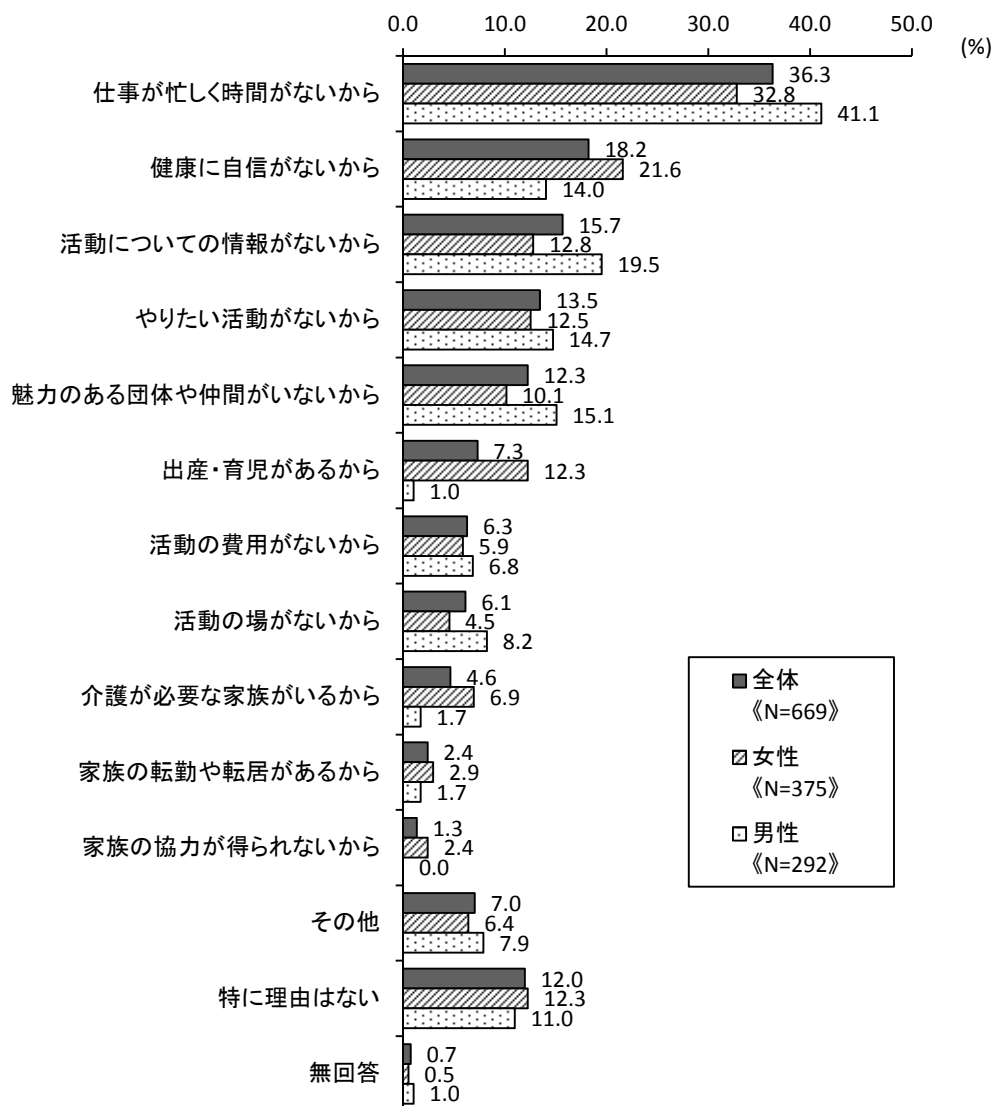
【全体】

現在社会的な活動に参加していない理由は、「仕事が忙しく時間がないから」が36.3%と最も高く、次いで、「健康に自信がないから」が18.2%、「活動についての情報がないから」が15.7%と続いている。

【性別】

男女ともに現在社会的な活動に参加していない理由は、「仕事が忙しく時間がないから」が最も高く、女性は3割、男性では4割を超えている。次いで、女性は「健康に自信がないから」が21.6%、「活動についての情報がないから」が12.8%と続き、男性は「活動についての情報がないから」が19.5%、「魅力のある団体や仲間がないから」が15.1%と続いている。

社会的活動に参加しない理由 〈2つまで回答可〉【全体、性別】



【前回調査との比較】

社会的な活動に参加していない理由について、今回と前回調査ともに、「仕事が忙しく時間がないから」という理由が男女とも最も多い。また、前回調査と比べ、女性では「健康に自信がないから」、男性では「活動についての情報がないから」を理由にあげる人が増えている。

社会的活動に参加しない理由は、今回と前回調査ともに、男女では、1位は「仕事が忙しく時間がないから」で3割以上となっている。

今回調査、女性2位の「健康に自信がないから」は21.6%で、前回調査の9.6%よりも12.0ポイント上回り、「活動についての情報がないから」でも5.1ポイント上回っている。

また、割合に大きな差はないが「出産・育児があるから」が前回調査は2位で上位となっていたが、今回調査では5位に下がっている。

男性でも、2位以降の上位項目は同じであるが、順位は違っている。

男女ともに、「活動についての情報がないから」の順位が前回に比べ上がっており、更なる積極的な情報発信が求められている。

社会的活動に参加しない理由〈複数回答可〉【前回調査, 今回調査】

		1位	2位	3位	4位	5位
今回調査	女性 《N=375》	仕事が忙しく時間がないから 32.8%	健康に自信がないから 21.6%	活動についての情報がないから 12.8%	やりたい活動がないから 12.5%	出産・育児があるから 12.3%
	男性 《N=292》	仕事が忙しく時間がないから 41.1%	活動についての情報がないから 19.5%	魅力のある団体や仲間がないから 15.1%	やりたい活動がないから 12.5%	健康に自信がないから 14.0%
前回調査	女性 《N=365》	仕事が忙しく時間がないから 30.4%	出産・育児があるから 14.5%	健康に自信がないから 9.6%	やりたい活動がないから 8.2%	活動についての情報がないから 7.7%
	男性 《N=303》	仕事が忙しく時間がないから 45.5%	魅力のある団体や仲間がないから 7.9%	健康に自信がないから 6.9%	やりたい活動がないから 6.9%	活動についての情報がないから 5.6%

5. 職業・就労について

(1) 女性の働き方

①理想

問9. 一般的に、女性の働き方について、あなたが望ましいと思うのはどれですか。

女性の働き方について、全体では約5割が再就職型を理想としている。男性においては女性と比べ、無職型、出産退職型を望む割合が高い反面、就労継続型を望む割合はやや低い。

【全体】

理想とする女性の働き方について、全体では、「再就職型」が50.8%と最も高く、5割以上が出産育児期間後は再就職することを理想としている。次いで「就労継続型」が26.7%、「出産退職型」が10.0%と続いている。

また、基本的に就労を継続することを理想とする「再就職型」+「就労継続型」では77.5%となっている。

【性別】

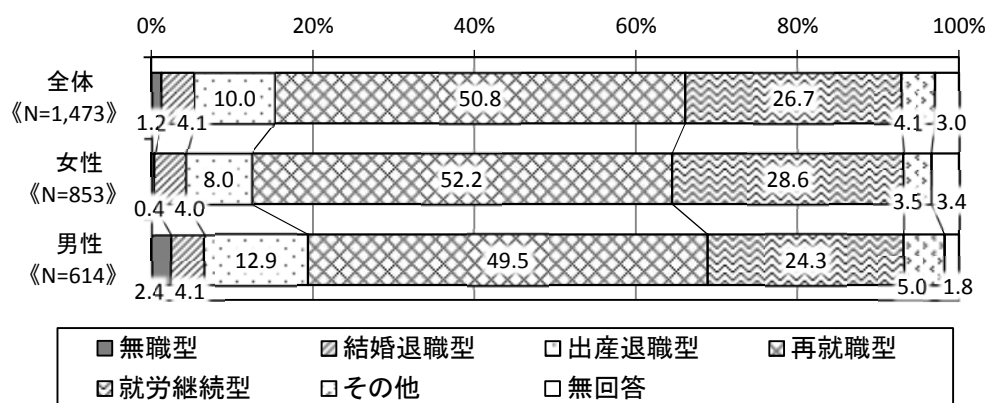
女性では、「再就職型」が52.2%と最も比率が高く、次に「就労継続型」が28.6%、「出産退職型」が8.0%と続いている。

男性でも、「再就職型」が49.5%と最も比率が高く、次に「就労継続型」が24.3%、「出産退職型」が12.9%と続いている。

男女差をみると、「再就職型」では2.7ポイント、「就労継続型」では4.3ポイント女性が男性を上回っており、「出産退職型」では4.9ポイント男性が女性を上回っている。

また、女性の「無職型」は0.4%で、「職業を持たない」と考える女性はわずかとなっている。

理想とする女性の働き方【全体、性別】



【前回調査との比較】

女性の働き方について、前回調査と比べ傾向に大きな変化は見られないが、女性において就労継続型を理想とする割合が高くなった。

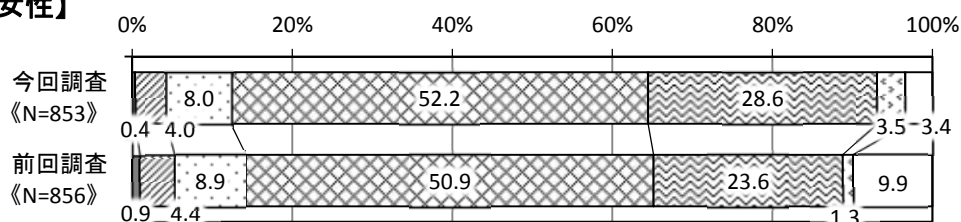
【性別】

理想とする女性の働き方について、前回調査と比較すると、女性の「就労継続型」が5.0ポイント、「再就職型」が1.3ポイント上回っており、就労を希望する女性が増えている。

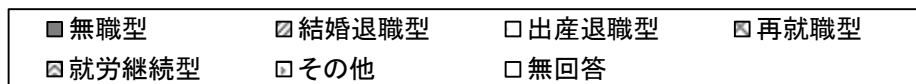
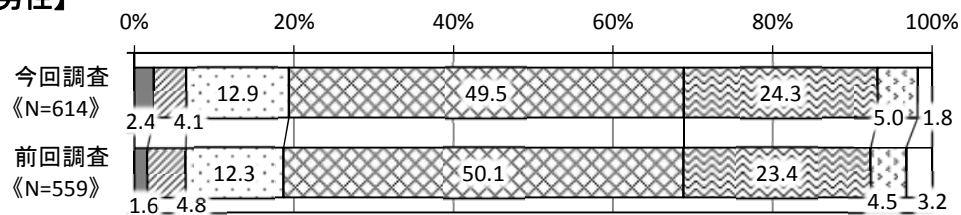
男性においては前回調査と比べ、傾向に大きな変動は見られなかった。

理想とする女性の働き方【性別】

【女性】



【男性】



②現実（実際）

問 10. あなたご自身の職業の持ち方は、実際はどれに該当しますか。(子どもがいない方は、いと仮定してお答えください)

女性の自分自身の職業の持ち方について、40歳代から60歳代においては4割以上が再就職を選んでいる。20歳代、30歳代においては、他の年代と比べ、出産を機に退職する割合が高い。

【全体（女性）】

女性の自分自身の職業の持ち方については、全体では、「再就職型」が39.5%と最も比率が高くなっており、次いで「就労継続型」が25.8%、「出産退職型」が12.3%と続いている。

基本的に就労を継続することとする「再就職型」と「就労継続型」の合計は65.3%となっている。

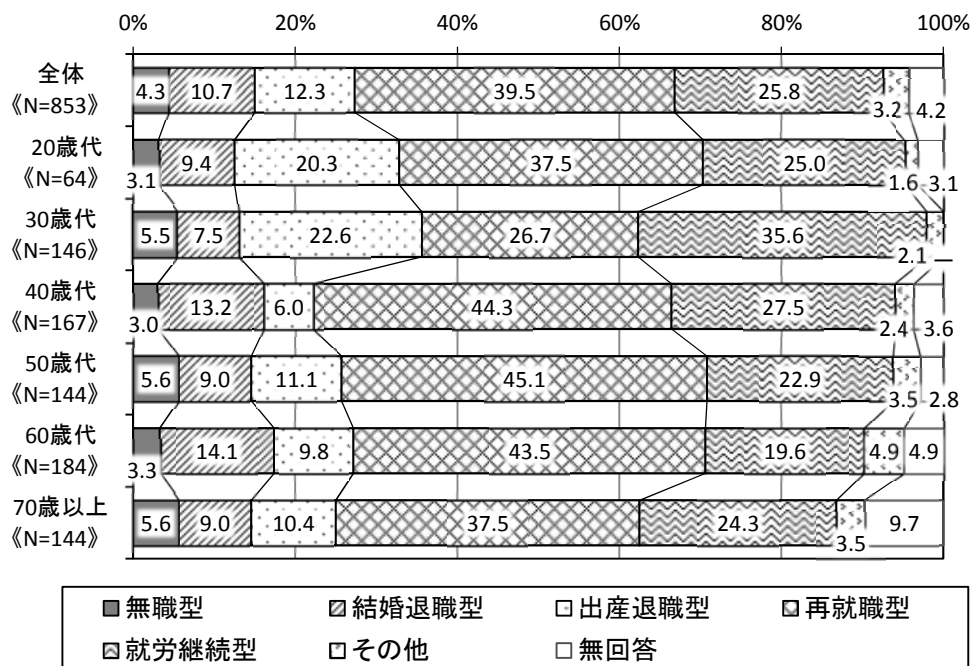
【年代別（女性）】

各型の構成比は、30歳代を除く年代で1位が「再就職型」、2位は「就労継続型」。30歳代では反対に、1位が「就労継続型」、2位が「再就職型」となった。「再就職型」は40歳代から60歳代で4割以上となり、「就労継続型」は30歳代の35.6%を筆頭に20歳代から50歳代および70歳代で2割を超えている。

「出産退職型」は20歳代から30歳代で2割を超えている。

基本的に就労を継続することとする「再就職型」と「就労維持型」の合計は、すべての年代で6割を超え、40歳代で7割を超えて最も高い。

現実（実際）の女性の働き方（女性）【全体、年代別】



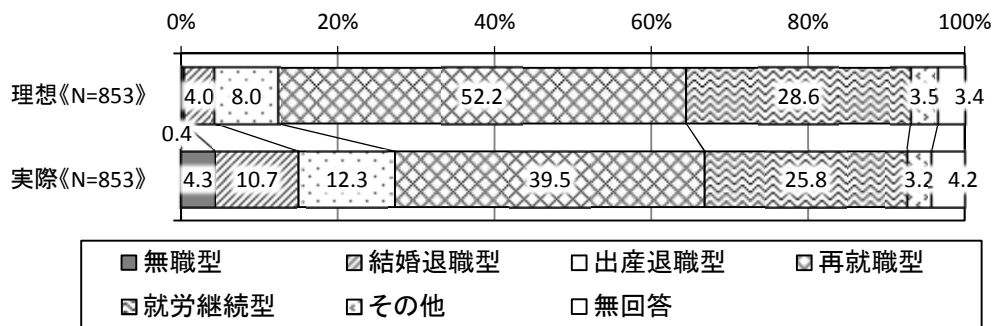
③理想と現実（実際）の比較（女性のみ）

女性の働き方について、全体の5割以上が再就職を理想としているが、実際に再就職している割合は4割に満たない。

【全体(女性)】

女性の働き方について、理想と現実（実際）の差が最も大きいのは「再就職型」で、理想が現実（実際）よりも12.7ポイント上回っている。次いで差が大きいのは、「結婚退職型」で、理想が実際を6.7ポイント下回っている。

理想と実際の比較【女性】



【ライフコース別（女性）】

表頭を「(1) 理想」、表側「(2) 現実（実際）」として整理すると、左上から右下の対角線上の部分が理想と現実が一致している「Aタイプ：理想と一致」、対角線から右上部分が働くことを理想としているが、実際は望むような働き方ができない「Bタイプ：就労阻害型」、対角線の左下部分が理想は働くことをあまり望まないが、現実（実際）は働いている「Cタイプ：不本意な就労」の3タイプに分けられる。この3タイプの割合をみると、理想と現実が一致している人が58.0%、就業を阻害されている人が29.4%、不本意ながらも就労している人が12.6%いることがわかる。

理想と実際の比較【女性】ライフワークコース別

N=761 (その他・無回答を除く)			(1)理想					
			無職型	結婚退職型	出産退職型	再就職型	就労継続型	
(2) 現実 (実際)	無職型	職業をもたない	1人 0.1%	2人 0.3%	3人 0.4%	9人 1.2%	17人 2.2%	Bタイプ: 就労阻害 224人 (29.4%)
	結婚退職型	結婚するまでは職業をもつ	1人 0.1%	20人 2.4%	14人 1.8%	40人 5.3%	14人 1.8%	
	出産退職型	子どもができるまでは職業をもつ	0人 0.0%	5人 0.7%	29人 3.8%	56人 7.4%	13人 1.7%	
	再就職型	職業をもち、出産育児期間は一時退職し、子どもにかかからなくなってから、再就職する	1人 0.1%	2人 0.3%	11人 1.4%	257人 33.8%	56人 7.4%	
	就労継続型	結婚や出産・育児にかかわらず、ずっと職業をもちつづける	0人 0.0%	2人 0.3%	9人 1.2%	65人 8.5%	134人 17.6%	
			Cタイプ: 不本意な就労 96人 (12.6%)			Aタイプ: 理想と一致 441人 (58.0%)		

Aタイプ → 理想と現実で一致している
 Bタイプ → 働く事を理想としているが、実際は望むような働き方ができない
 Cタイプ → 理想は働く事をあまり望まないが、現実には働いている

【前回調査との比較】

女性の働き方について、前回調査と比べ、傾向に大きな変化は見られないが、「再就職型」、「就労継続型」では、理想・実際ともわずかに増加している。

【理想】

女性の働き方について、前回調査と比較すると、傾向に大きな変化は見られないが、女性では「就労継続型」が5.0ポイント、「再就職型」で1.3ポイント今回調査が上回っている。

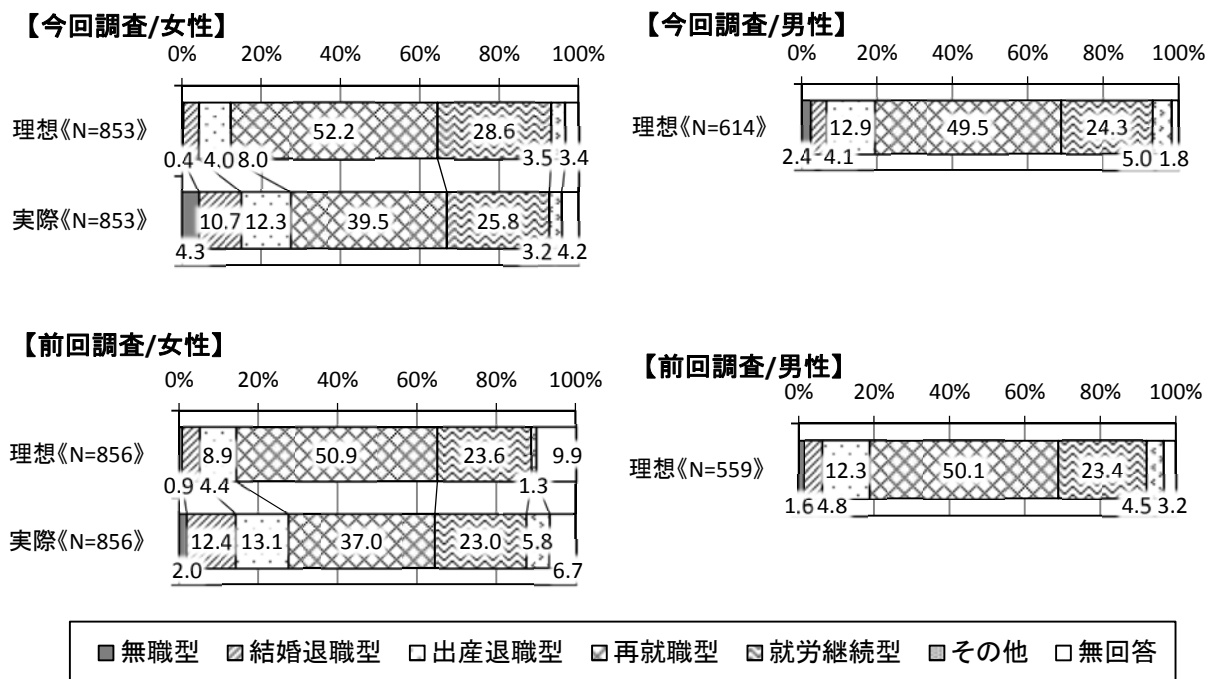
【実際】

女性の働き方について、前回調査と比較すると、女性では「無職型」2.3ポイント、「再就職型」2.5ポイント、「就労継続型」2.8ポイント、今回調査が上回っている。

【理想と実際の比較】

理想と現実（実際）の差は「再就職型」で前回調査が13.9ポイント、今回調査が12.7ポイントと、その差はわずかに1.2ポイントであるが、今回調査が前回調査を下回った。

実際の女性の働き方【性別】



(2) 女性の再チャレンジに必要なこと

問 11. 女性が結婚や出産・育児のために退職し、その後、再就職するためには特に何が必要だと思いますか。〈2 つまで回答可〉

女性の再チャレンジに必要なこととして、女性は「夫の理解や家事・育児などへの参加」、男性は「子どもや介護を必要とする人を預かってくれる施設やサービスの充実」を挙げている。

【全体】

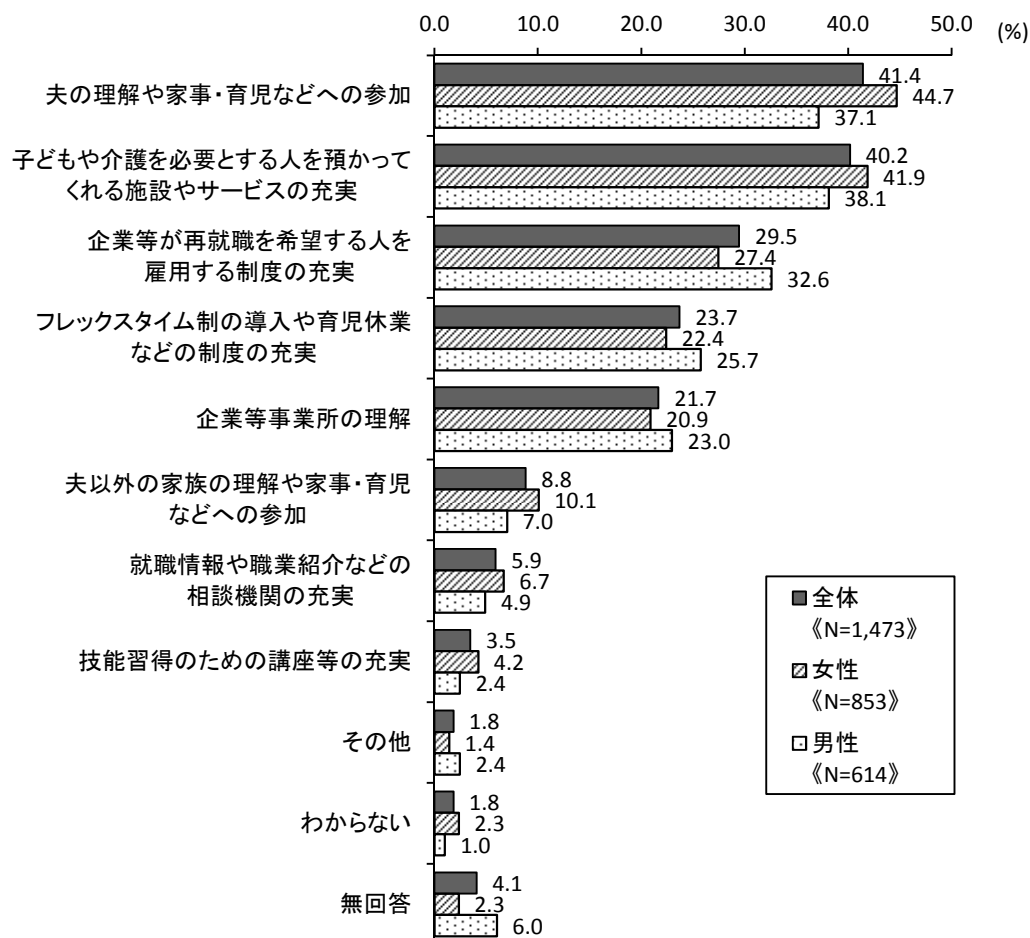
女性の再チャレンジにおいて必要なことは、「夫の理解や家事・育児などへの参加」が 41.4%と最も高く、次いで「子どもや介護を必要とする人を預かってくれる施設やサービスの充実」が 40.2%、「企業等が再就職を希望する人を雇用する制度の充実」が 29.5%となっている。女性の再チャレンジには家庭生活が深く関わり、それを取り巻く環境を改善する必要がある。

【性別】

女性は「夫の理解や家事・育児などへの参加」が 44.7%と最も高く、次いで「子どもや介護を必要とする人を預かってくれる施設やサービスの充実」が 41.9%、「企業等が再就職を希望する人を雇用する制度の充実」が 27.4%と続いている。

男性では「子どもや介護を必要とする人を預かってくれる施設やサービスの充実」が 38.1%、次いで「夫の理解や家事・育児などへの参加」が 37.1%、「企業等が再就職を希望する人を雇用する制度の充実」が 32.6%と続いている。

女性の再チャレンジに必要なこと 〈2 つまで回答可〉【全体、性別】



【子どもの有無別】

女性の再チャレンジに必要なこととして、子どもがいない人の方が、子どもがいる人よりも「企業等事業所の理解」が必要であると考えている。

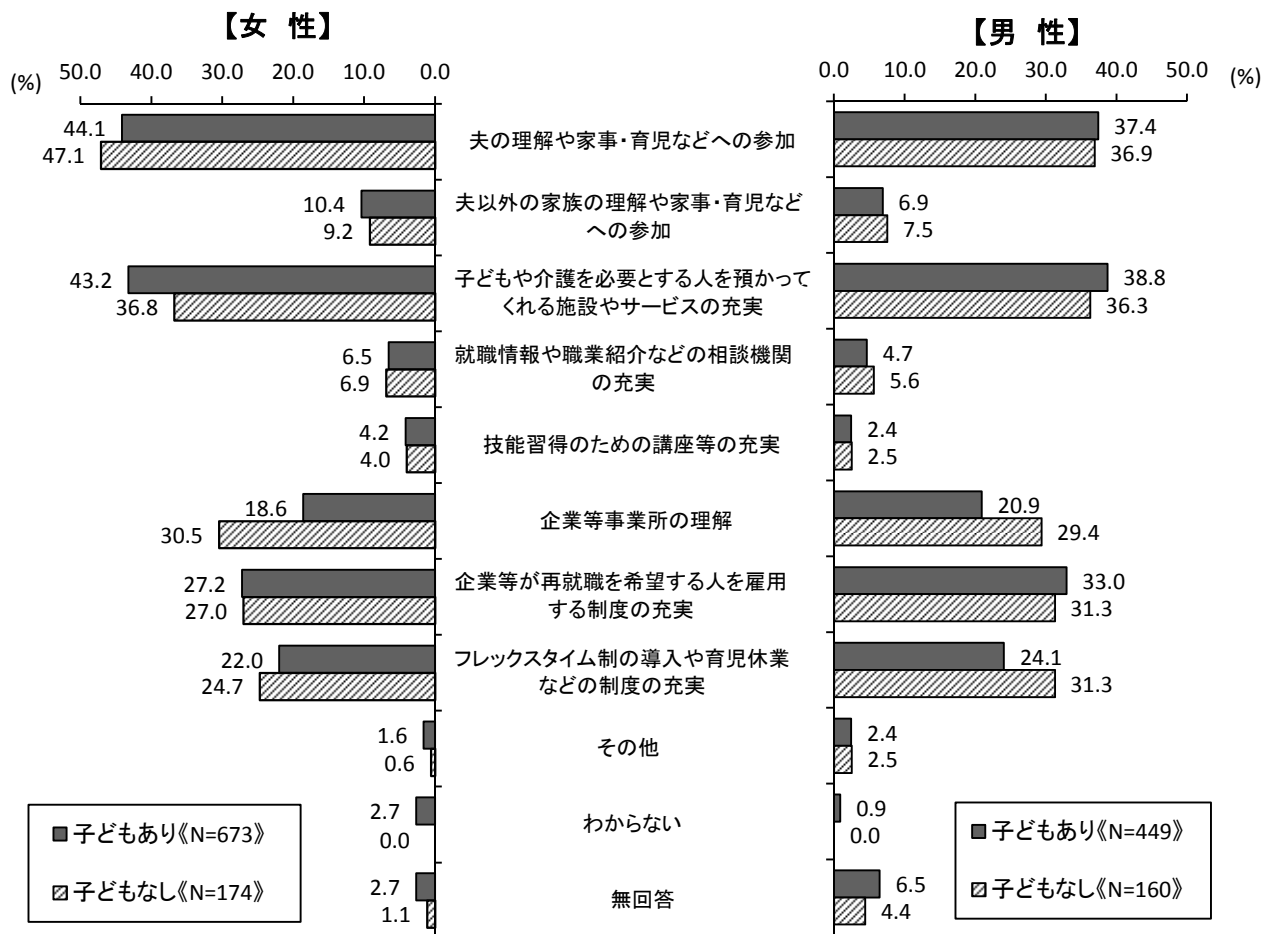
女性の再チャレンジに必要なこととして、子どもがいる女性は、「夫の理解や家事・育児などへの参加」が44.1%で1位、次いで「子どもや介護を必要とする人を預かってくれる施設やサービスの充実」が43.2%、「企業等が再就職を希望する人を雇用する制度の充実」が27.2%となっている。

子どもがいない女性でも、「夫の理解や家事・育児などへの参加」が47.1%で1位、「子どもや介護を必要とする人を預かってくれる施設やサービスの充実」が36.8%で2位、3位は「企業等事業所の理解」で30.5%となっている。

子どもがいる男性では、「子どもや介護を必要とする人を預かってくれる施設やサービスの充実」が38.8%で1位、「夫の理解や家事・育児などへの参加」が37.4%で2位、「企業等が再就職を希望する人を雇用する制度の充実」が33.0%で3位である。

子どもがいない男性では、「夫の理解や家事・育児などへの参加」が36.9%で1位、「子どもや介護を必要とする人を預かってくれる施設やサービスの充実」が36.3%で2位、次いで「企業等が再就職を希望する人を雇用する制度の充実」および「フレックスタイム制の導入や育児休業などの制度の充実」が同比率の31.3%で3位となっている。

女性の再チャレンジに必要なこと〈2つまで回答可〉
【性, 子どもの有無別】



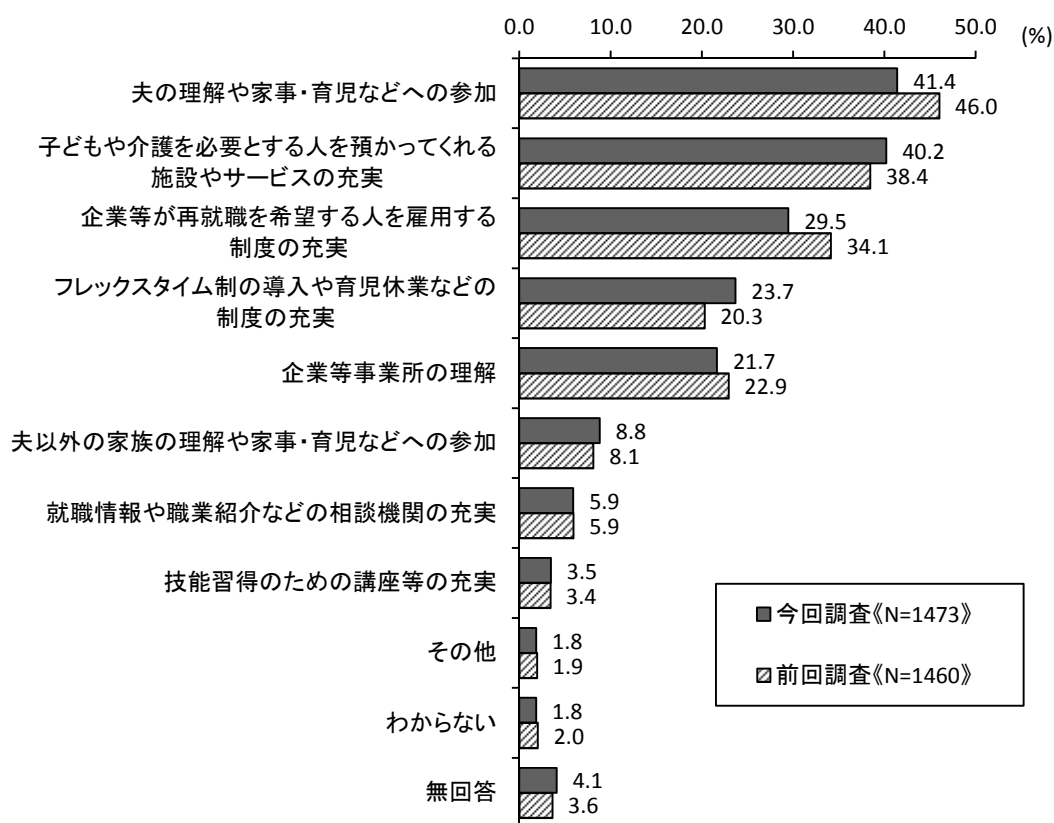
【前回調査との比較】

女性の再チャレンジに必要なことについて、前回調査と比較すると、「夫の理解や家事・育児などへの参加」や、「子育て支援等の施設やサービス・雇用制度の充実」は、前回同様に必要性が高く感じられている。

女性の再チャレンジに必要なことについて、前回調査と比較すると、ともに1位が「夫の理解や家事・育児などへの参加」、2位が「子どもや介護を必要とする人を預かってくれる施設やサービスの充実」、3位が「企業等が再就職を希望する人を雇用する制度の充実」となっており、前回同様に「子育て支援等の施設やサービス」、「雇用制度の充実」についてのニーズが高いことが分かる。

女性の再チャレンジに必要なこと〈2つまで回答可〉

【今回調査・前回調査】



(3) 職業と就業・起業の意向

①職業と働き方

問 12. あなたの仕事は次のうちどれにあたりますか。

職業について、「有職者」は、女性が5割半ば、男性は約7割となっている。

【全体】

職業については、「常勤・フルタイム」が33.3%で最も高く、次いで「無職」が19.0%、「専業主婦(夫)」が16.1%、「パート・アルバイト・派遣など」が15.8%と続いている。

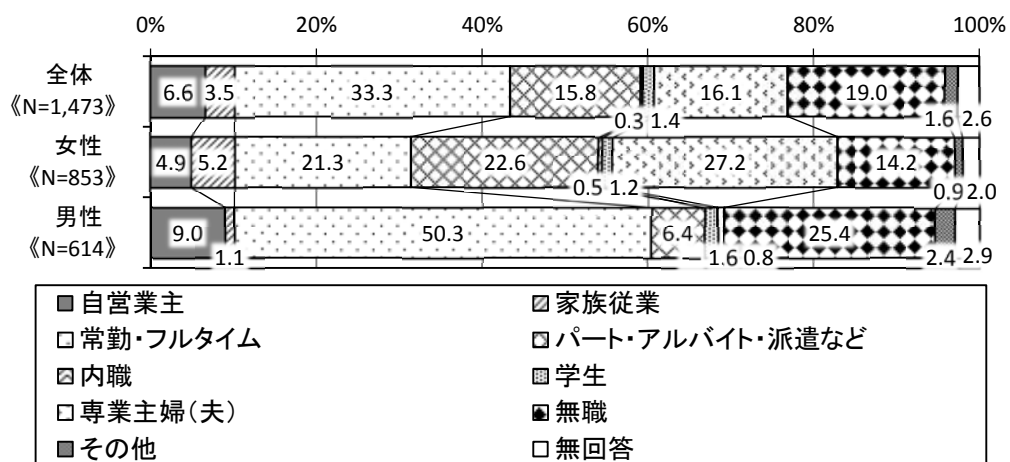
職業の有無で見ると、『有職者』（「自営業主」＋「家族従業」＋「常勤・フルタイム」＋「パート・アルバイト・派遣など」＋「内職」＋その他）は61.0%で、『無職者』（「学生」＋「専業主婦(夫)」＋「無職」）は36.4%となっている。

【性別】

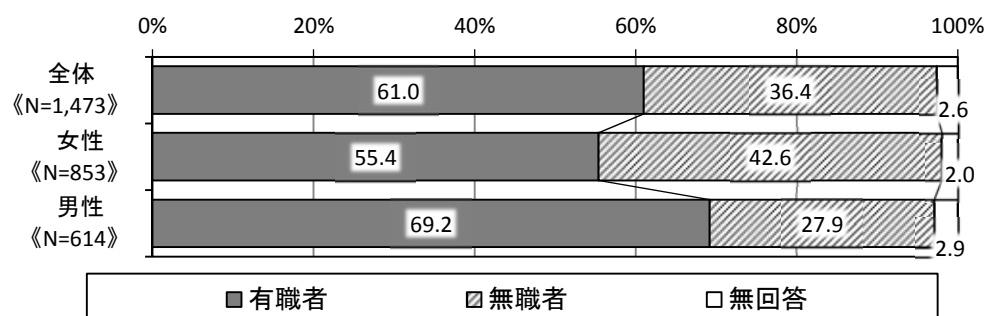
女性は「専業主婦」が27.2%で最も高く、次いで「パート・アルバイト・派遣など」が22.6%、「常勤・フルタイム」が21.3%と続いている。また、男性は「常勤・フルタイム」が50.3%と最も高く、次いで「無職」が25.4%と続く。

女性の『有職者』は55.4%、『無職者』は42.6%で、男性の『有職者』は69.2%、『無職者』は27.9%となっており、『有職者』の男女差は男性が女性よりも13.8ポイントほど上回り、『無職者』は女性が男性よりも14.7ポイントほど上回っている。

職業と働き方【全体, 性別】



職業の有無【全体, 性別】



【性, 年代別】

女性では30歳代の約4割が専業主婦である。男性では30歳代, 40歳代の8割以上が「常勤・フルタイム」で勤務している。

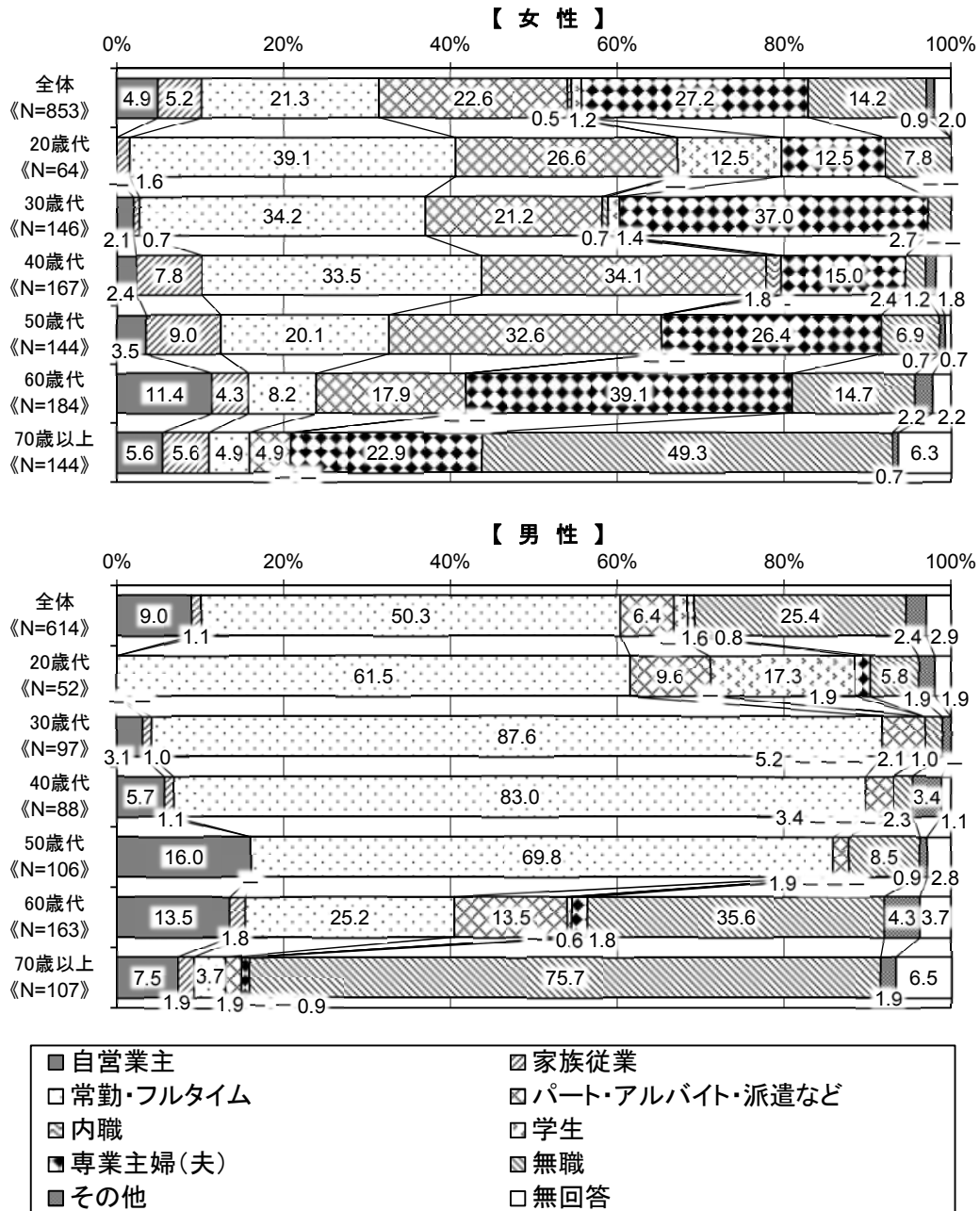
職業について, 女性は20歳代から40歳代で「常勤・フルタイム」が3割以上と高いが, 30歳代では「専業主婦」の割合も37.0%と高くなっている。また, 40歳代から50歳代では「パート・アルバイト・派遣など」がやはり3割を超えて高くなっている。

働き方に違いはあるが, 20歳代から50歳代で仕事をしている女性の割合は高く, 特に40歳代では約8割が有職者となる。

男性では, 20歳代(61.5%)から30歳代(87.6%)にかけて「常勤・フルタイム」の割合が26.1ポイント増加し, 反対に40歳代(83.0%)から50歳代(69.8%)では13.2ポイント減少と大きな差がみられる。男性の20歳代から50歳代は「常勤・フルタイム」の割合が最も高い。

また, 「自営業主」では50歳代で16.0%, 60歳代で13.5%と他の年代に比べ高いことがわかる。

職業と働き方【性, 年代別】

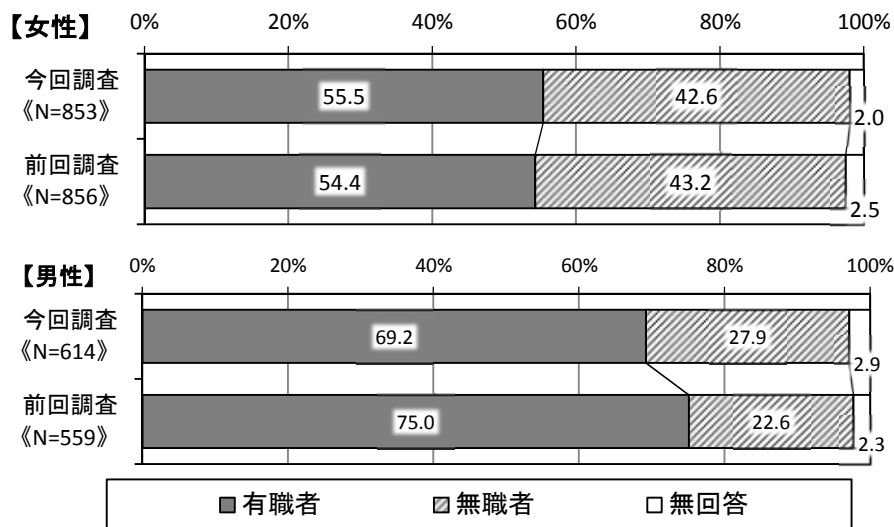


【前回調査との比較】

職業と働き方について、前回調査と比べると、男性有職者の割合が低下している傾向にある。

職業と働き方について、女性では、前回調査との大きな違いは見られなかったが、男性では、前回調査と比べ有職者が5.8ポイント減少し、無職者は5.3ポイントほど上昇した。

職業と働き方【今回調査, 前回調査】

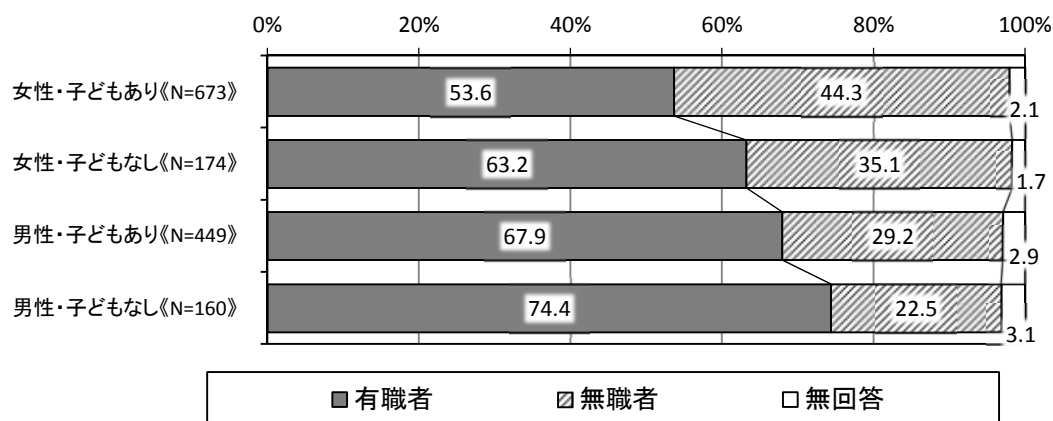


【性, 子どもの有無別】

仕事と子どもの有無について、男女ともに、子どもがいる有職者の割合は、子どもがいない有職者と比べて低い傾向にある。

仕事と子どもの有無について、男女とも「有職者」は、「子どもなし」が「子どもあり」を上回っている。子どもがいる女性有職者は53.6%、子どもがいない女性有職者は63.2%でその差は9.6ポイントとなっている。子どもがいる男性有職者は67.9%、子どもがいない男性有職者は74.4%で、その差は6.5ポイントとなっている。

職業と働き方【性, 子どもの有無別】



②就業・起業意向（無職者のみ）

問 13. あなたは、今後、働きたいと思えますか(起業を含む)。

今後の就業・起業の意向について、無職者のうち5割以上は就業・起業の意向を持つ。一方で、男性無職者において働く意向を持たない割合が4割近く存在する。

【全体】

今後の就業・起業の意向について、「働きたいが、働けない」が36.8%で最も高く、次に「働きたくない」が33.1%、「働きたい」が17.8%と続いている。

「働きたい」と「働きたいが、働けない」を合わせた54.6%の人が働く意向を持っている。

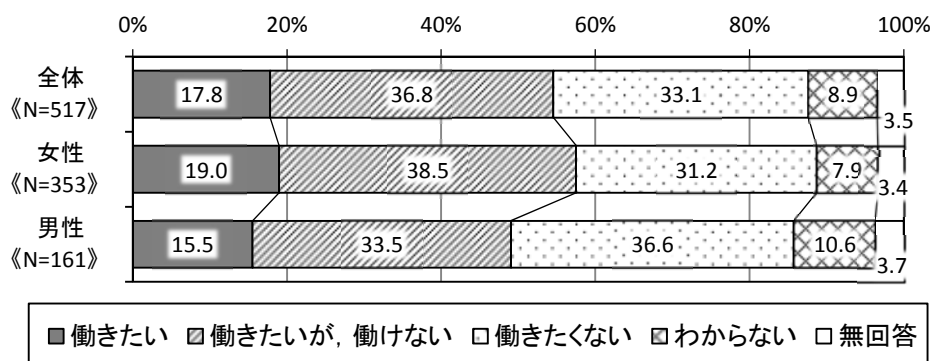
【性別】

女性無職者は、「働きたいが、働けない」が38.5%と最も高く、次に「働きたくない」が31.2%、「働きたい」が19.0%と続いている。

男性無職者では、女性と順序が異なり「働きたくない」が36.6%で最も高く、次いで「働きたいが、働けない」が33.5%、「働きたい」が15.5%ポイントと続く。

「働きたい」、「働きたいが、働けない」と思う女性無職者は57.5%、男性無職者は49.0%で、女性が男性よりも8.5ポイントほど働く意向が強い。

就業・起業意向【全体、性別】《無職者のみ》



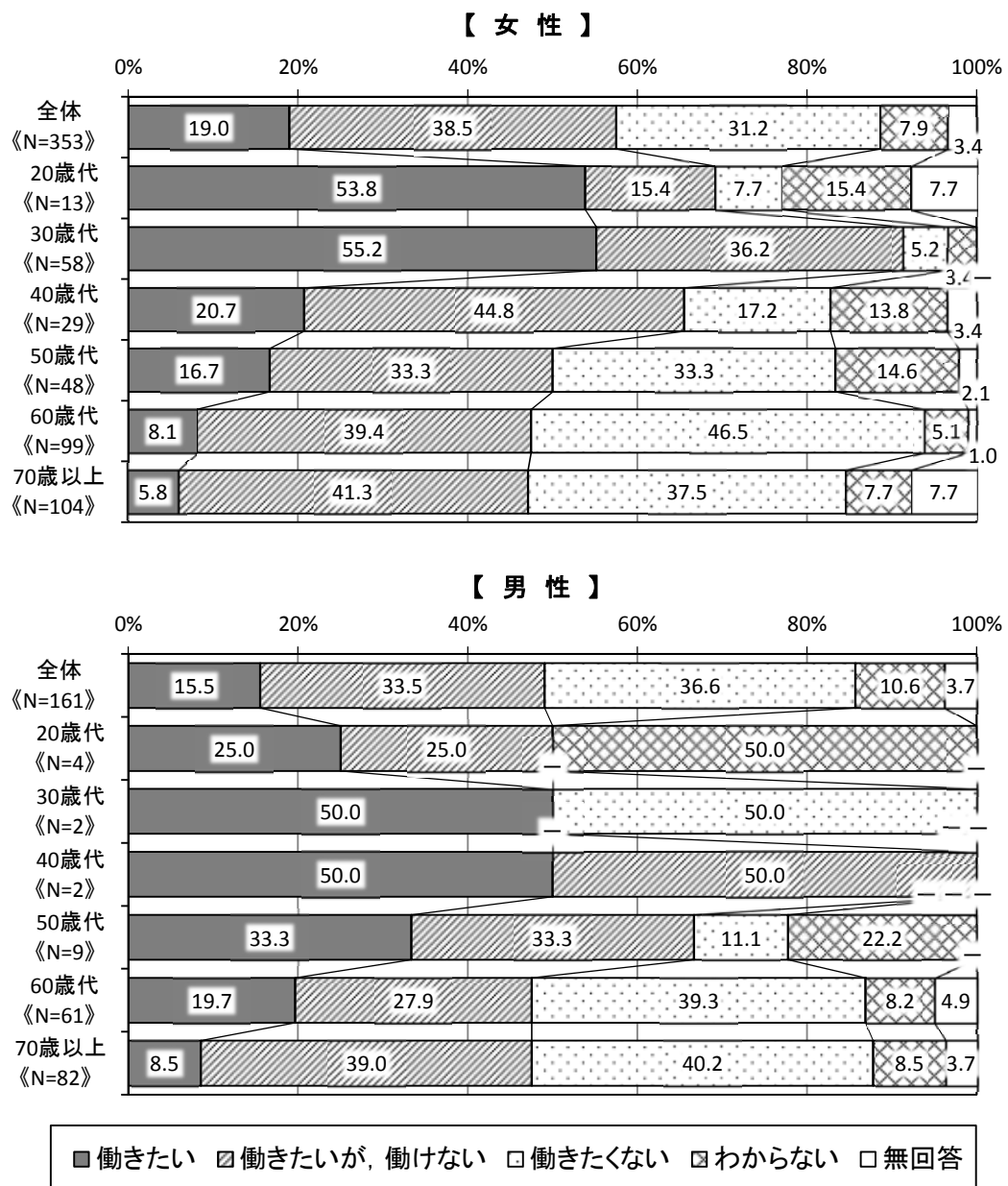
【性, 年代別】

今後の就業・起業の意向について、男女ともに、60歳代以上で働く意向をもつ割合は約5割である。

今後の就業・起業の意向について、「働きたい」と思う女性は、20歳代と30歳代で5割を超えるが、それ以上の年代では割合は徐々に低くなっている。

「働きたいが、働けない」は女性の30歳代以上で3割を超えて高く、特に40歳代では4割以上となっている。男性では60歳代でも約3割を占める。

就業・起業意向【全体, 性別】《無職者のみ》



【前回調査との比較】

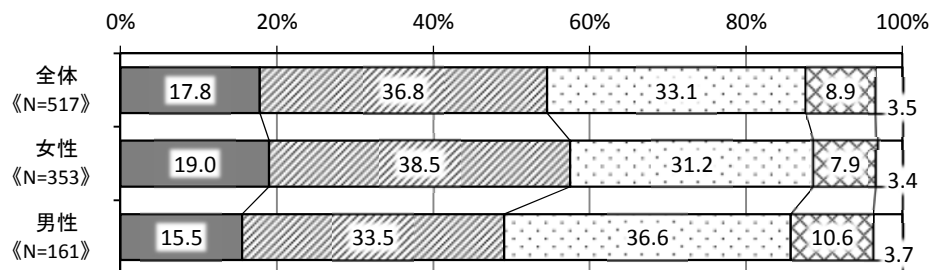
今後の就業・起業の意向について、前回調査と比べると、「働きたい」と答える人の割合は低下し、「働きたくない」と答える人の割合は上昇した。その傾向は男性よりも女性において顕著に見られる。

今後の就業・起業の意向について、前回調査で「働きたい」と答えた人の割合が27.7%であったのに対して、今回調査では17.8%で9.9ポイント下回った。

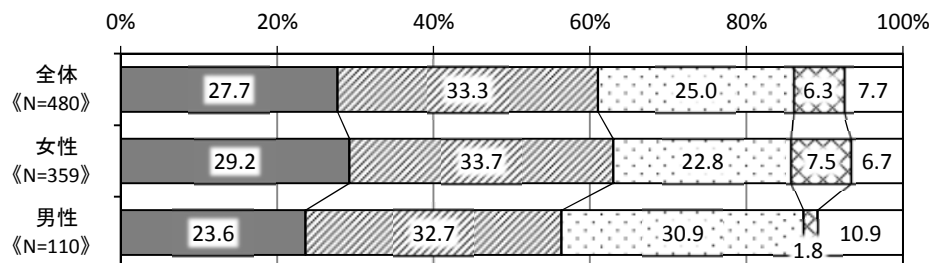
一方、「働きたいが、働けない」と答えた人の割合は、前回調査より3.5ポイント上回っている。また、「働きたくない」と答えた人は前回調査より8.1ポイント上回っている。

就業・起業意向【今回調査, 前回調査】《無職者のみ》

【今回調査】



【前回調査】



■ 働きたい □ 働きたいが、働けない □ 働きたくない □ わからない □ 無回答

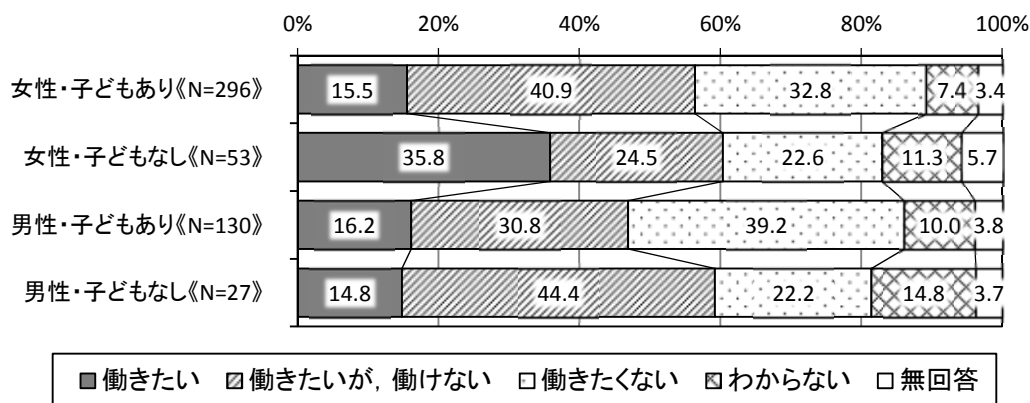
【性・子どもの有無別】

今後の就業・起業の意向について、子どもがいる女性無職者の4割以上が「働きたいが、働けない」と感じている。子どもがいない男性無職者も4割以上が「働きたいが、働けない」と感じている。

今後の就業・起業の意向について、女性では、子どもの有無で、就業・起業の意向が大きく違っている。子どもがいる女性無職者では「働きたいが、働けない」が40.9%と最も高く、子どもがいない女性無職者では「働きたい」が35.8%と最も高くなっている。

男性では、子どもがいる男性無職者が、子どもがいない男性無職者よりも「働きたいが、働けない」割合が13.6ポイント下回り、反対に「働きたくない」では17.0ポイント上回っている。

就業・起業意向【性、子どもの有無別】《無職者のみ》



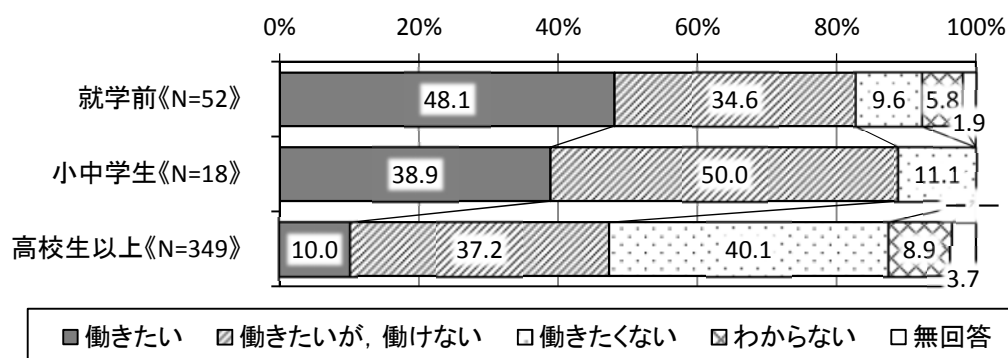
【子どもの年齢別】

今後の就業・起業の意向と子どもの年齢について、「小中学生」以下の子を持つ無職者の8割以上は就労の意向を有している。一方で、子どもが「高校生以上」の無職者の就労意向は急減し、約4割が「働きたくない」と答えている。

今後の就業・起業意向と子どもの年齢については、子どもの年齢が低いほど「働きたい」の割合は高い。また、「働きたいが、働けない」は「小中学生」が50.0%で最も高く、次いで「高校生以上」が37.2%、「就学前」が34.6%と続く。

「働きたくない」では「高校生以上」で40.1%と高い割合となっている。

就業・起業意向【子供の年齢別】《無職者のみ》



③働けない理由

問 14. あなたが働けない主な理由は何ですか。〈2つまで回答可〉

働けない理由について、「年齢的に適当な募集がないから」をあげる割合が無職者全体の5割以上、「体力や健康に自信がないから」が4割以上である。また、女性のみが回答した主な理由に、「仕事と家事・育児の両立が難しいから」や「配偶者や子どもなど家族が望まないから」がある。

【全体】

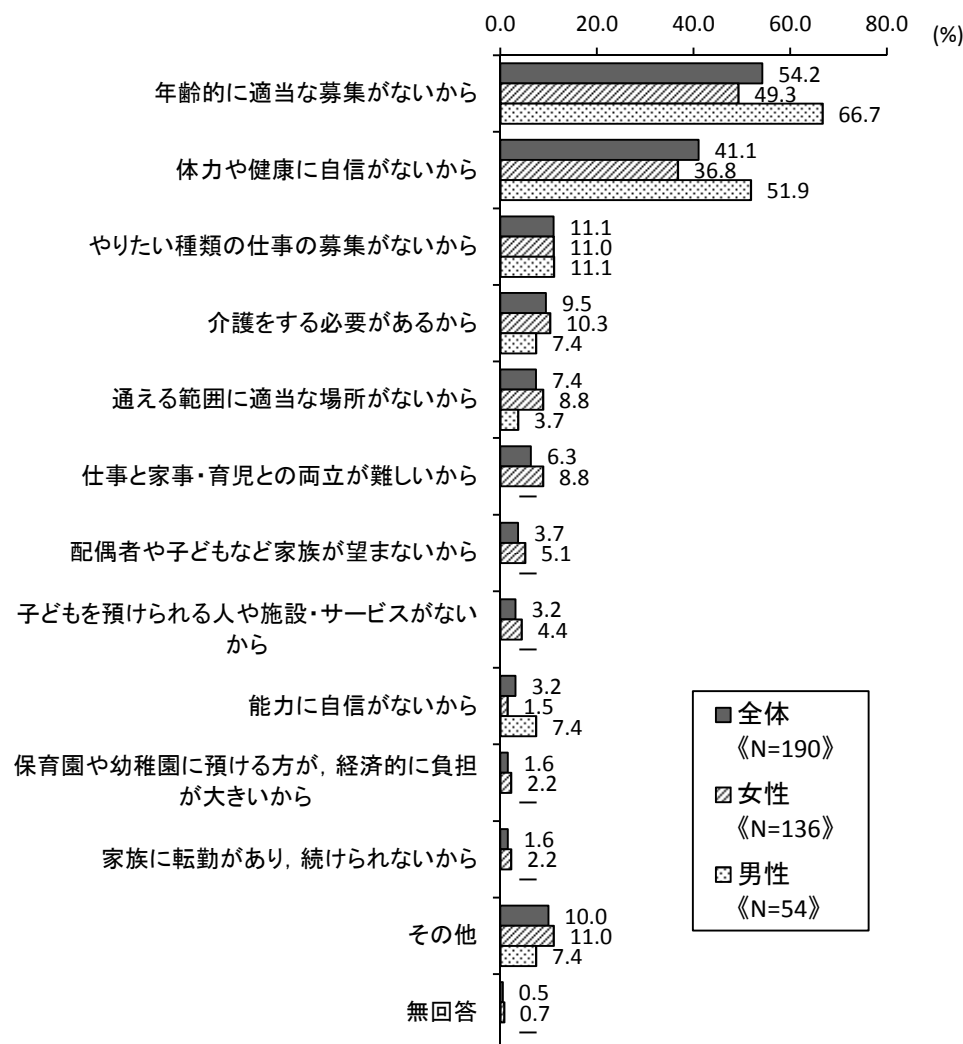
働けない理由について、「年齢的に適当な募集がないから」が、54.2%と最も高く、次いで「体力や健康に自信がないから」が41.1%、「やりたい種類の仕事の募集がないから」が11.1%と続いている。

【性別】

男女とも、上位3項目については、全体と同順序であるが、「年齢的に適当な募集がないから」については男性が女性を17.4ポイント上回り、「体力や健康に自信がないから」についても男性が女性よりも15.1ポイント上回っている。「やりたい種類の仕事の募集がないから」については、ほぼ同じとなっている。

また「仕事と家事・育児との両立が難しいから」、「配偶者や子どもなど家族が望まないから」、「子どもを預けられる人や施設・サービスがないから」および「家族に転勤があり、続けられないから」については、女性のみが回答となっている。

働けない理由 〈2つまで回答可〉【全体、性別】



【性, 年代別】

働けない理由について、男女ともに、年代が高くなるにつれ、「年齢的に適当な募集がないから」と答える割合が高くなる傾向にある。

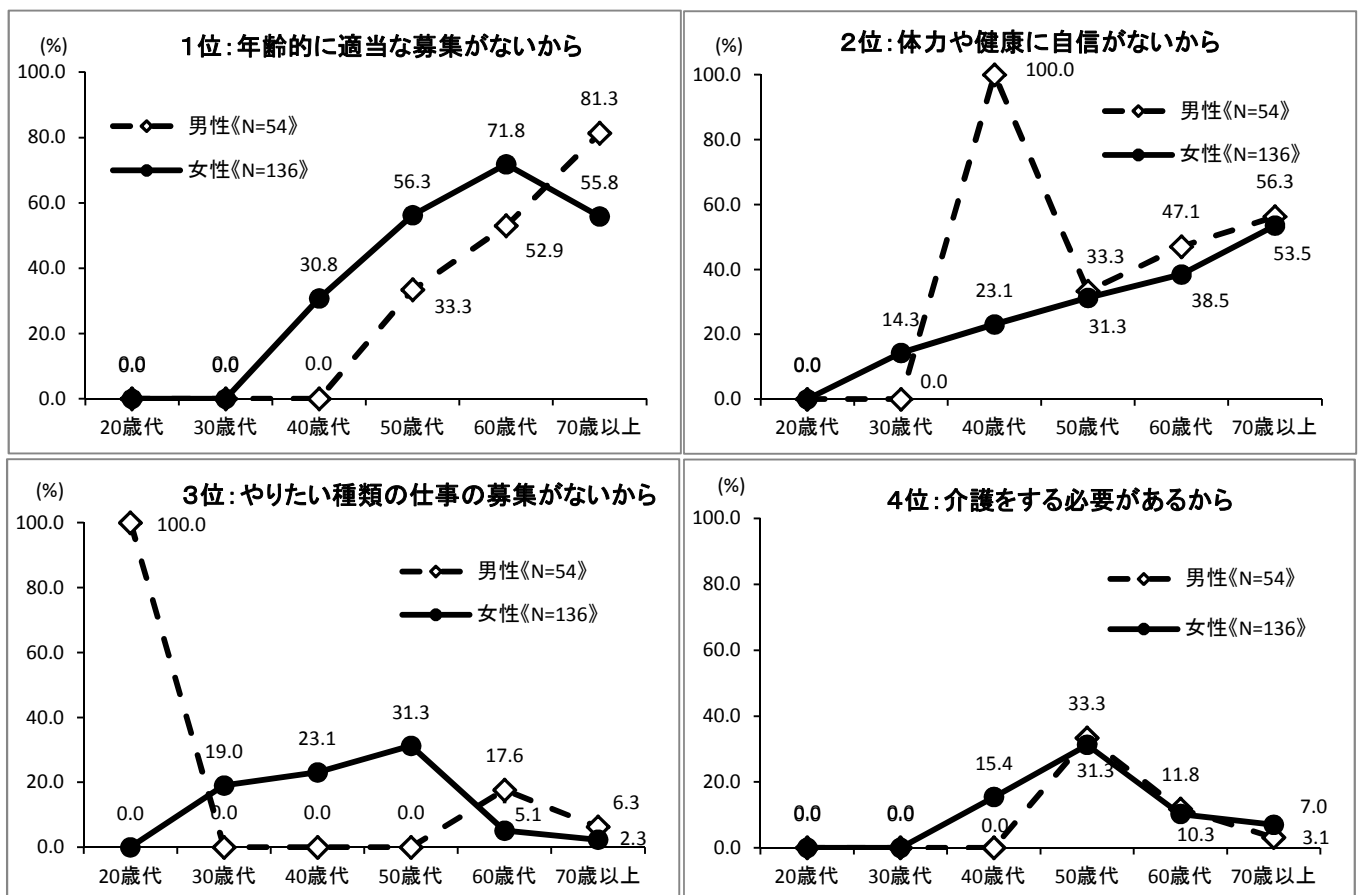
働けない理由について、1位の「年齢的に適当な募集がないから」は、女性は40歳代で30.8%、60歳代では71.8%と最も高い。男性は50歳代で33.3%、その後、年代が上がるにつれてその割合も増加し70歳以上では81.3%と最も高くなっている。

2位の「体力や健康に自信がないから」についても、男女とも年代が上がるにつれて割合が上がっている。

3位の「やりたい種類の仕事の募集がないから」については、女性の30歳代から50歳代が働けない理由として回答する割合が高いが、男性の30歳代から50歳代では理由として回答した人はいない。

4位の「介護をする必要があるから」では、男女ともに50歳代が最も高くなっている。

働けない理由〈2つまで回答可〉【性, 年代別】上位4項目



※調査数

【女性】

20歳代(N=2) 30歳代(N=21) 40歳代(N=13) 50歳代(N=16) 60歳代(N=39) 70歳以上(N=43)

【男性】

20歳代(N=1) 30歳代(—) 40歳代(N=1) 50歳代(N=3) 60歳代(N=17) 70歳以上(N=32)

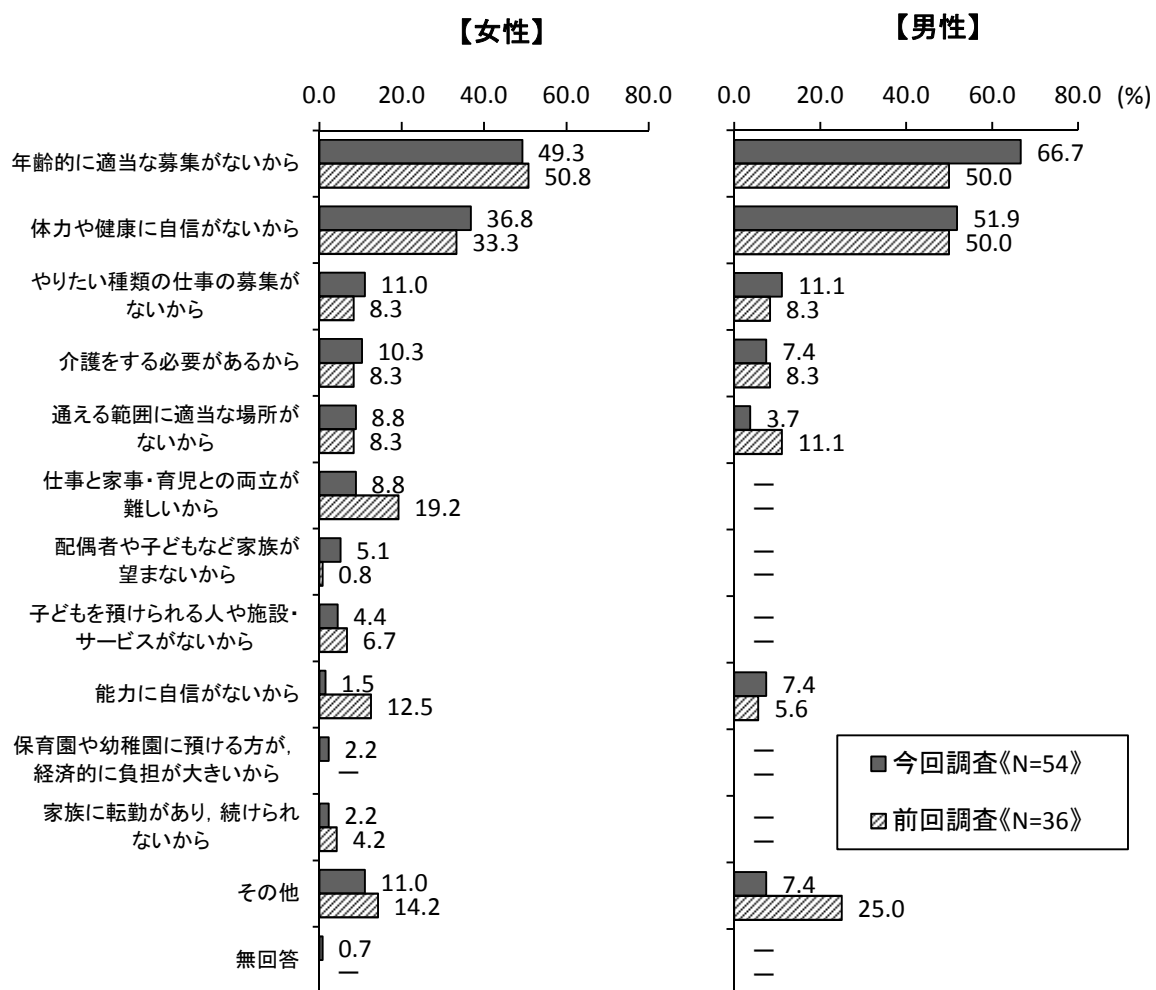
【前回調査との比較】

働けない理由について、前回調査と比べて、「年齢的に適当な募集がないから」と答えた男性の割合が増えている。

働けない理由について、女性では、今回調査が前回調査よりも「仕事と家事・育児との両立が難しいから」では10.4ポイント、「能力に自信がないから」では11.0ポイント下回っている。

男性では、前回調査よりも「年齢的に適当な募集がないから」が16.7ポイントほど上回り、「通える範囲に適当な場所がないから」が前回調査より7.4ポイントほど下回っている。

働けない理由〈2つまで回答可〉【今回調査, 前回調査】



6. 少子高齢化について

(1) 少子化が進んだ理由

問 15. 近年、女性が一生のうちに産む子どもの数が少なくなっていますが、その主な理由としてどのようなことがあると思いますか。〈2つまで回答可〉

少子化が進んだ理由について、全体の4割以上が「育児や教育のための経済的負担が大きいから」、
「子育てしながら働ける社会的なしくみが整っていないから」と感じている。

【全体】

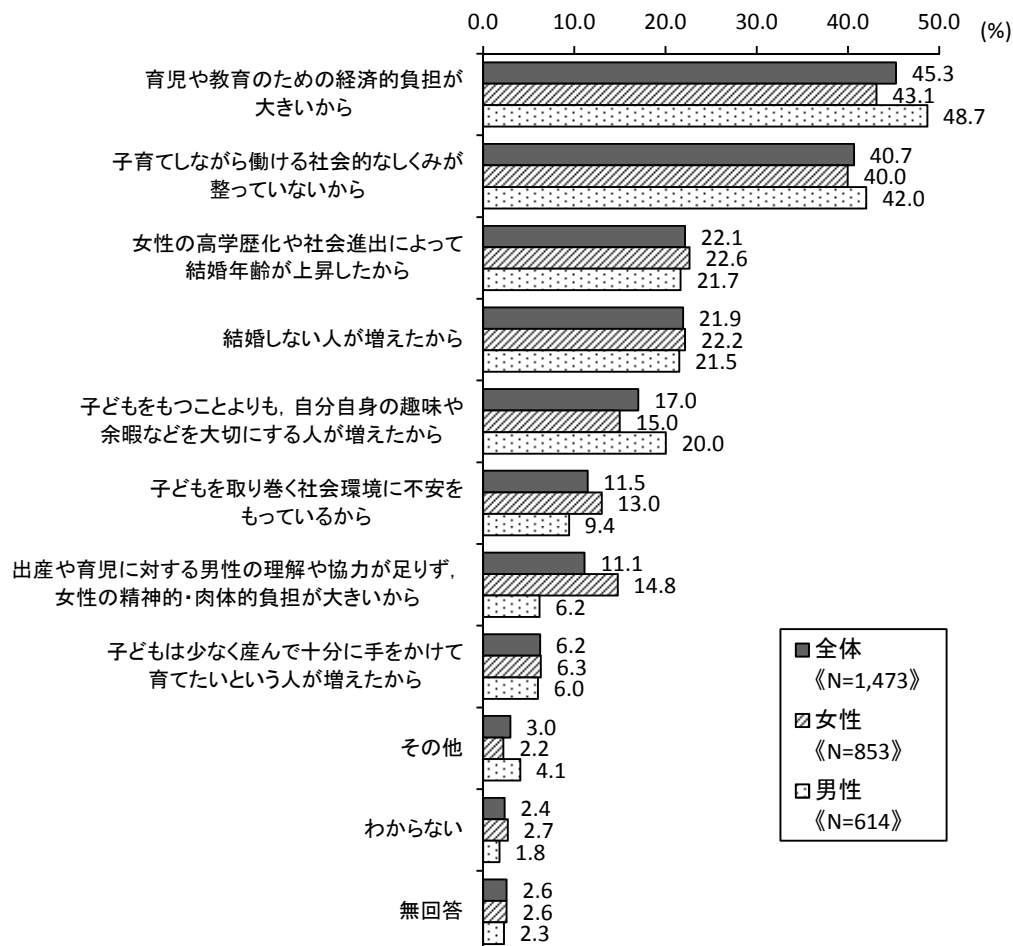
少子化が進んだ理由について、「育児や教育のための経済的負担が大きいから」が45.3%と最も高く、次いで「子育てしながら働ける社会的なしくみが整っていないから」が40.7%、「女性の高学歴化や社会進出によって結婚年齢が上昇したから」が22.1%と続いている。

【性別】

男女とも上位3項目については、全体と同順序であるが、「育児や教育のための経済的負担が大きいから」については、男性が女性よりも5.6ポイント上回り、「子育てしながら働ける社会的なしくみが整っていないから」についても男性が女性よりも2.0ポイント上回っている。「女性の高学歴化や社会進出によって結婚年齢が上昇したから」はほぼ同率である。

男女差が最も大きい項目は、「出産や育児に対する男性の理解や協力が足りず、女性の精神的・肉体的負担が大きいから」であり、女性が14.8ポイント、男性が6.2ポイントと、8.6ポイントの差がある。

少子化が進んだ理由〈2つまで回答可〉【全体、性別】



【性、年代別】

少子化が進んだ理由について、20歳代から50歳代の女性の約5割、20歳代から60歳代の男性の約5割が「育児や教育のための経済的負担が大きいから」と感じている。

少子化が進んだ理由について、上位の項目は「育児や教育のための経済的負担が大きいから」と「子育てしながら働ける社会的なしくみが整っていないから」となっており、「育児や教育のための経済的負担が大きいから」については、20歳代から30歳代の女性と、30歳代から40歳代の男性で5割を超えている。

また、男女ともに20歳代・30歳代・50歳代で「女性の高学歴化や社会進出によって結婚年齢が上昇したから」が上位に入り、40歳代と60歳代以上では「結婚しない人が増えたから」が上位に入っている。性別に関係なく、年代によって少子化の理由に違いが見られる。

少子化が進んだ理由〈2つまで回答可〉【性、年代別】上位3項目

		1位	2位	3位
女性	20歳代 《N=64》	育児や教育のための経済的負担が大きいから 51.6%	子育てしながら働ける社会的なしくみが整っていないから 50.0%	女性の高学歴化や社会進出によって結婚年齢が上昇したから 25.0%
	30歳代 《N=146》	育児や教育のための経済的負担が大きいから 53.4%	子育てしながら働ける社会的なしくみが整っていないから 47.3%	・女性の高学歴化や社会進出によって結婚年齢が上昇したから ・子どもをもつことよりも、自分自身の趣味や余暇などを大切にしている人が増えたから 21.2%
	40歳代 《N=167》	育児や教育のための経済的負担が大きいから 47.9%	子育てしながら働ける社会的なしくみが整っていないから 38.3%	結婚しない人が増えたから 23.4%
	50歳代 《N=144》	・育児や教育のための経済的負担が大きいから ・子育てしながら働ける社会的なしくみが整っていないから 45.1%		女性の高学歴化や社会進出によって結婚年齢が上昇したから 21.5%
	60歳代 《N=167》	子育てしながら働ける社会的なしくみが整っていないから 39.1%	育児や教育のための経済的負担が大きいから 38.0%	結婚しない人が増えたから 31.5%
	70歳以上 《N=144》	結婚しない人が増えたから 28.5%	育児や教育のための経済的負担が大きいから 27.1%	子育てしながら働ける社会的なしくみが整っていないから 26.4%
	男性	20歳代 《N=52》	育児や教育のための経済的負担が大きいから 46.2%	子育てしながら働ける社会的なしくみが整っていないから 28.8%
30歳代 《N=97》		育児や教育のための経済的負担が大きいから 60.8%	子育てしながら働ける社会的なしくみが整っていないから 40.2%	女性の高学歴化や社会進出によって結婚年齢が上昇したから 21.6%
40歳代 《N=88》		育児や教育のための経済的負担が大きいから 54.5%	子育てしながら働ける社会的なしくみが整っていないから 40.9%	結婚しない人が増えたから 21.6%
50歳代 《N=106》		育児や教育のための経済的負担が大きいから 46.2%	子育てしながら働ける社会的なしくみが整っていないから 41.5%	女性の高学歴化や社会進出によって結婚年齢が上昇したから 27.4%
60歳代 《N=163》		育児や教育のための経済的負担が大きいから 49.7%	子育てしながら働ける社会的なしくみが整っていないから 48.5%	・結婚しない人が増えたから ・子どもをもつことよりも、自分自身の趣味や余暇などを大切にしている人が増えたから 21.5%
70歳以上 《N=107》		子育てしながら働ける社会的なしくみが整っていないから 41.1%	育児や教育のための経済的負担が大きいから 34.6%	結婚しない人が増えたから 27.1%

【性、職業の有無別】

少子化が進んだ理由について、有職者・無職者を問わず、「育児や教育のための経済的負担が大きいから」と「子育てしながら働ける社会的なしくみが整っていないから」と感じている。

少子化が進んだ理由について、有職者・無職者を問わず、上位2項目は「育児や教育のための経済的負担が大きいから」と「子育てしながら働ける社会的なしくみが整っていないから」となっている。

特に女性有職者と男性の有職・無職者では4割以上を占め、3位の理由とは大差が見られた。

また、男女ともに有職者は「女性の高学歴化や社会進出によって結婚年齢が上昇したから」を、無職者では「結婚しない人が増えたから」を理由に挙げられており、特徴が伺える。

少子化が進んだ理由〈2つまで回答可〉【性、職業の有無別】上位3項目

		1位	2位	3位
女性	有職者 《N=473》	育児や教育のための経済的負担が大きいから 47.6%	子育てしながら働ける社会的なしくみが整っていないから 43.6%	女性の高学歴化や社会進出によって結婚年齢が上昇したから 23.0%
	無職者 《N=363》	育児や教育のための経済的負担が大きいから 38.3%	子育てしながら働ける社会的なしくみが整っていないから 36.4%	結婚しない人が増えたから 24.8%
男性	有職者 《N=473》	育児や教育のための経済的負担が大きいから 51.5%	子育てしながら働ける社会的なしくみが整っていないから 40.9%	女性の高学歴化や社会進出によって結婚年齢が上昇したから 22.1%
	無職者 《N=363》	子育てしながら働ける社会的なしくみが整っていないから 46.2%	育児や教育のための経済的負担が大きいから 45.0%	結婚しない人が増えたから 22.8%

【性、子どもの有無別】

少子化が進んだ理由について、性別、子どもの有無別では傾向の大きな違いは見られない。

少子化が進んだ理由について、男女ともに、順位の違いはあるが、「育児や教育のための経済的負担が大きいから」と「子育てしながら働ける社会的なしくみが整っていないから」が上位となっている。

また、子どもの有無別では傾向に大きな違いは見られない。

少子化が進んだ理由〈2つまで回答可〉【性、子どもの有無別】上位3項目

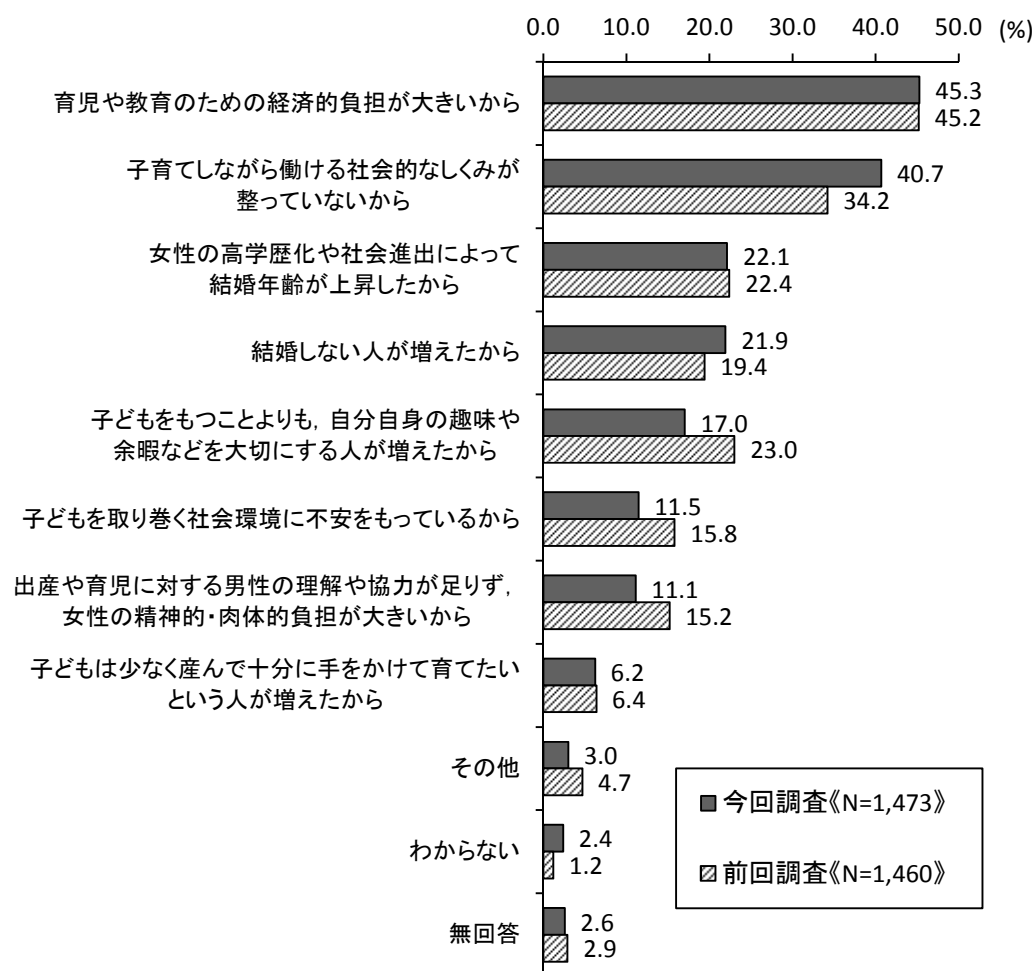
		1位	2位	3位
女性	子どもあり 《N=673》	育児や教育のための経済的負担が大きいから 45.8%	子育てしながら働ける社会的なしくみが整っていないから 40.1%	女性の高学歴化や社会進出によって結婚年齢が上昇したから 21.8%
	子どもなし 《N=174》	子育てしながら働ける社会的なしくみが整っていないから 39.1%	育児や教育のための経済的負担が大きいから 33.3%	結婚しない人が増えたから 27.0%
男性	子どもあり 《N=449》	育児や教育のための経済的負担が大きいから 49.4%	子育てしながら働ける社会的なしくみが整っていないから 43.9%	結婚しない人が増えたから 23.2%
	子どもなし 《N=160》	育児や教育のための経済的負担が大きいから 48.1%	子育てしながら働ける社会的なしくみが整っていないから 36.9%	女性の高学歴化や社会進出によって結婚年齢が上昇したから 30.0%

【前回調査との比較】

少子化が進んだ理由について、前回調査と比べて「子育てしながら働ける社会的なしくみが整っていないから」と感じる割合が上昇した。

少子化が進んだ理由について、前回調査よりも、「子育てしながら働ける社会的なしくみが整っていないから」が6.5ポイント、「結婚しない人が増えたから」が2.5ポイント上回り、「子どもをもつことよりも、自分自身の趣味や余暇などを大切にする人が増えたから」が6.0ポイント、「子どもを取り巻く社会環境に不安を持っているから」が4.3ポイント、「出産や育児に対する男性の理解や協力が足りず、女性の精神的・肉体的負担が大きいから」が4.1ポイント、それぞれ下回っている。

少子化が進んだ理由〈2つまで回答可〉【今回調査・前回調査】



(2) 豊かな老後のために必要なこと

問 16. あなたは、豊かな老後をおくるためには特にどのようなことが必要だと思いますか。
 (2つまで回答可)

豊かな老後のために必要なこととして、全体の約7割が「健康でいること」と回答している。

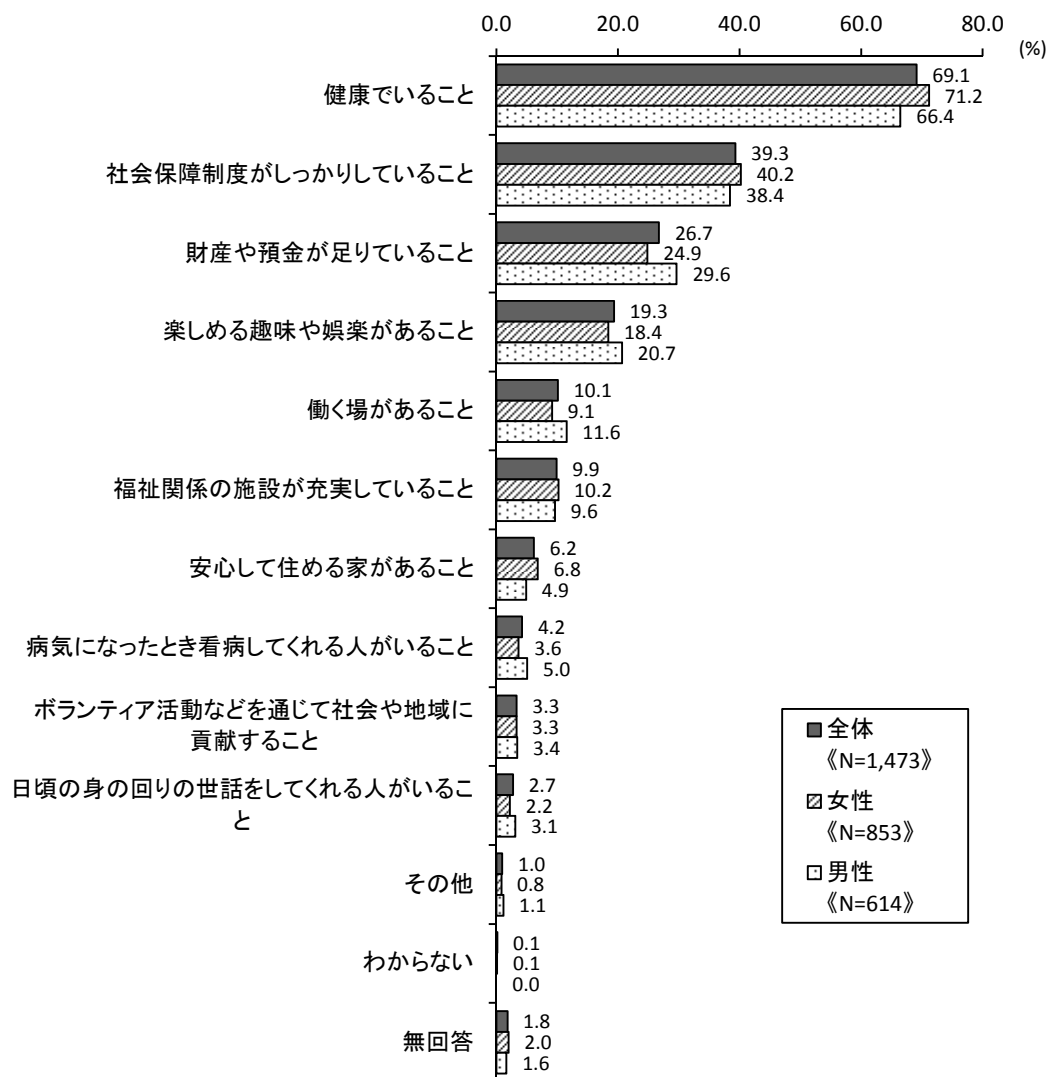
【全体】

豊かな老後のために必要なこととして、「健康でいること」が 69.1%と最も高く、次いで「社会保障制度がしっかりしていること」が 39.3%、「財産や預金が足りていること」が 26.7%と続いている。

【性別】

豊かな老後のために必要なこととして、男女とも上位項目は全体と同じとなっている。1位の「健康でいること」については、女性が男性を 4.8 ポイント上回り、2位の「社会保障制度がしっかりしていること」も女性が男性よりも 1.8 ポイント上回っている。3位の「財産や預金が足りていること」では、男性が女性よりも 4.7 ポイント上回っている。

豊かな老後のために必要なこと (2つまで回答可) 【全体、性別】

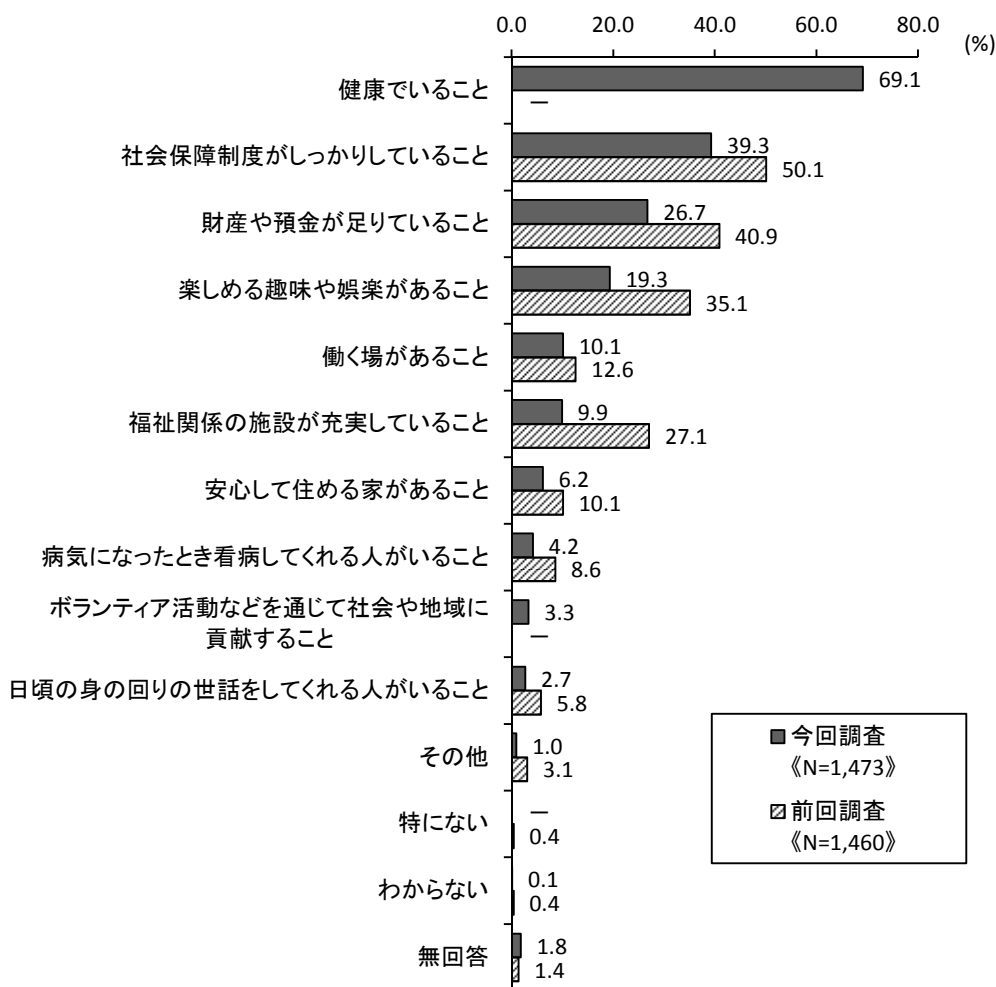


【前回調査との比較】

豊かな老後のために必要なことについて、前回調査と比べると、新設した「健康であること」が全体の7割を占めた。

豊かな老後のために必要なことについて、前回調査で上位であった「社会保障制度がしっかりしていること」や「財産や預金が足りていること」が今回調査において軒並み大きく値を減らした。一方で、今回調査で新設した「健康であること」は69.1%と、全体の約7割を占めた。

豊かな老後のために必要なこと〈2つまで回答可〉【今回調査, 前回調査】



【性, 職業の有無】

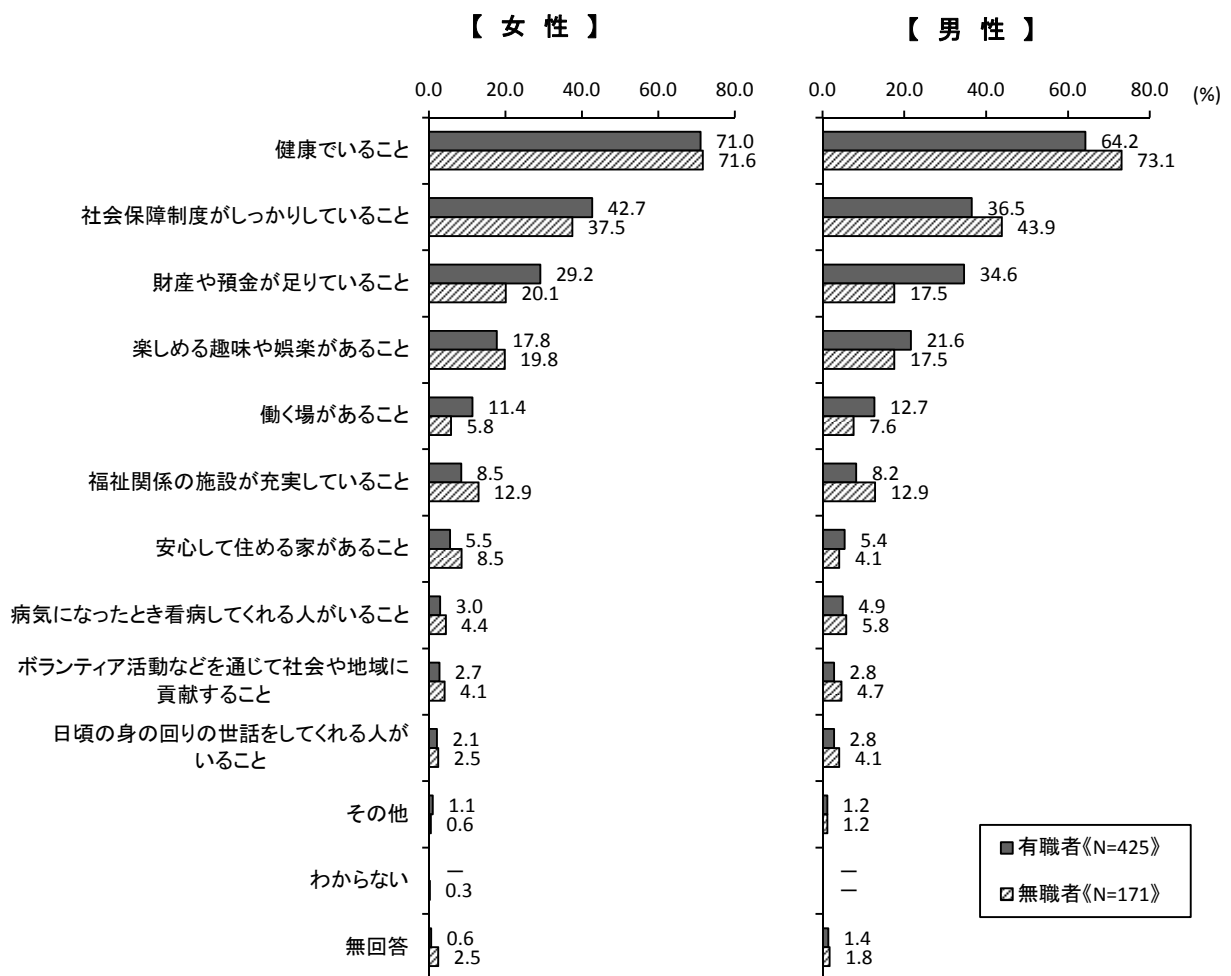
豊かな老後のために必要なことについて、男女ともに、有職者は無職者よりも「財産や貯金が足りていること」や「働く場があること」を回答する割合が高い。

豊かな老後のために必要なことについて、男女とも職業の有無にかかわらず、上位4項目は全体と同様となっている。

女性の職業の有無で差が大きいのは「財産や預金が足りていること」で、有職者が無職者を9.1ポイント、次いで「働く場があること」が5.6ポイントほど上回っている。

男性の職業の有無で差が大きいのは、女性と同様に「財産や預金が足りていること」で、有職者が無職者よりも17.1ポイント上回っている。次の「健康でいること」は、無職者が有職者よりも8.9ポイントほど上回っている。

豊かな老後のために必要なこと〈2つまで回答可〉【性, 職業の有無別】



7. 男女の人権について

(1) 健康状態に対するパートナーの理解

問 17. あなたは、パートナー(配偶者や恋人など)が、自分の健康状態について理解していると思いますか。

自分の健康状態に対するパートナーの理解について、6割以上がパートナーは自分の健康状態を「理解していると思う」と答えており、特に、男性の方が女性よりも感じている。

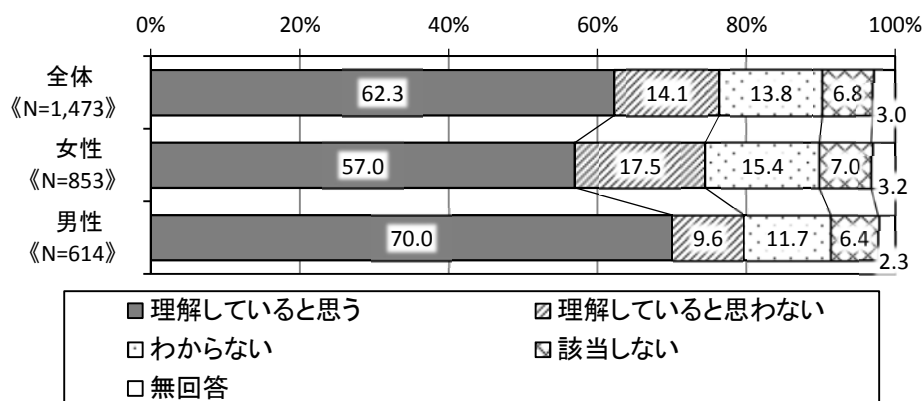
【全体】

パートナーが自分の健康状態を「理解していると思う」が62.3%で最も高く、「理解していると思わない」が14.1%、「わからない」が13.8%となっている。

【性別】

男女ともに「理解していると思う」が最も高く、女性57.0%、男性70.0%で、男性が女性よりも13.0ポイント上回っている。また「理解していると思わない」が女性17.5%、男性9.6%で、女性が男性よりも7.9ポイント上回っており、男女間で差が見られた。

自身の健康状態の理解度【全体、性別】



【前回調査との比較】

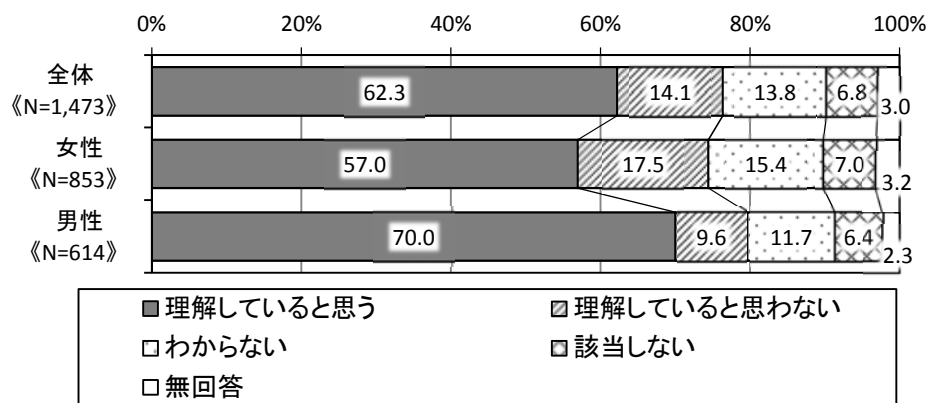
自分の健康状態に対するパートナーの理解について、前回調査と比べると、「理解してもらっている」と答えた割合が増えている。

自分の健康状態に対するパートナーの理解について、前回調査の設問では「夫や妻に男女の健康上のちがいを理解してもらっているか」となっており、若干、設問内容が異なるが、「理解していると思う」と答えた割合は、今回調査が62.3%と、前回調査の49.6%よりも12.7ポイントほど高い。

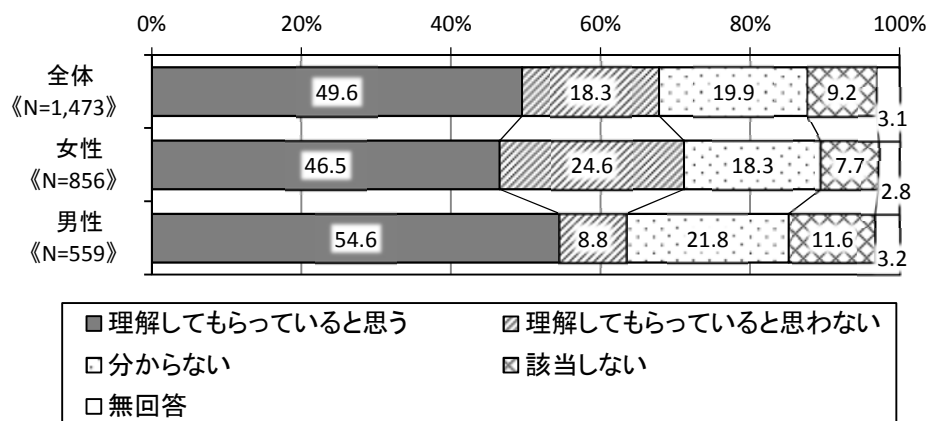
性別では、「理解していると思う」と答えた割合は、今回調査が前回調査よりも、女性で10.5ポイント、男性で15.4ポイントほど高くなっている。

【今回調査】

問：あなたは、パートナー（配偶者や恋人など）が、自分の健康状態について理解していると思いますか。



【前回調査】



問：あなたは、日常生活において、夫や妻に男女の健康上のちがいを理解してもらっていると思いますか。

(2) セクシャル・ハラスメントだと感じた経験・場所

問 18. セクシャル・ハラスメント*(性的いやがらせ)についてお尋ねします。次のようなことでセクシャル・ハラスメントだと感じた経験はありますか。また、それはどこで感じましたか。

セクシャル・ハラスメントについて、男女ともに「年齢やからだのことで不愉快な意見や冗談を言われたこと」で感じた割合が高い。

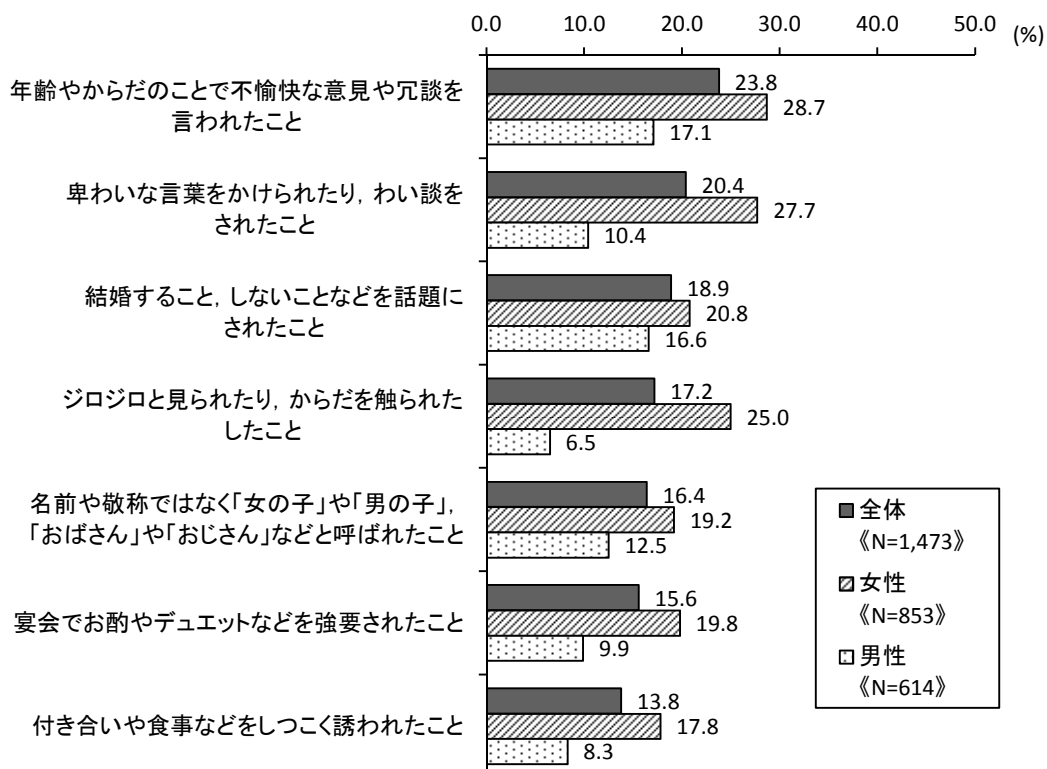
【全体】

全体としては、「年齢やからだのことで不愉快な意見や冗談を言われたこと」が 23.8%と最も高く、次いで「卑わいな言葉をかけられたり、わい談をされたこと」が 20.4%、「結婚すること、しないことなどを話題にされたこと」が 18.9%と続いている。

【性別】

男女ともに、「年齢やからだのことで不愉快な意見や冗談を言われたこと」が最も高く、女性が 28.7%、男性が 17.1%となっている。2 位・3 位について、女性は「卑わいな言葉をかけられたり、わい談をされたこと」が 27.7%、「ジロジロと見られたり、からだを触られたりしたこと」が 25.0%と続き、男性は「結婚すること、しないことなどを話題にされたこと」が 16.6%、「名前や敬称ではなく「女の子」や「男の子」、「おばさん」や「おじさん」などと呼ばれたこと」が 12.5%と続き、男女間で差がみられる。

セクシャル・ハラスメントの経験【全体、性別】



【性、場所別】

セクシャル・ハラスメントについて、女性の方が男性よりもセクシャル・ハラスメントを感じており、特に、「職場」で強く感じる割合が高い。

セクシャル・ハラスメントについて、職場では、「年齢やからだのことで不愉快な意見や冗談を言われたこと」が12.2%で最も高く、次いで「卑わいな言葉をかけられたり、わい談をされたこと」が11.6%、「結婚すること、しないことなどを話題にされたこと」が10.8%と続いている。

地域では、「名前や敬称ではなく「女の子」や「男の子」、「おばさん」や「おじさん」などと呼ばれたこと」、「結婚すること、しないことなどを話題にされたこと」、「年齢やからだのことで不愉快な意見や冗談を言われたこと」が上位となっているがその割合は1割以下となっている。

その他でも、「年齢やからだのことで不愉快な意見や冗談を言われたこと」、「ジロジロと見られたり、からだを触られたりしたこと」、「卑わいな言葉をかけられたり、わい談をされたこと」が上位に入っているが1割以下と割合は低い。

各場所において、女性の方がセクシャル・ハラスメントを感じており、特に「職場」で感じる割合が高い。

セクシャル・ハラスメントを感じた場所【全体、性別】上位3項目

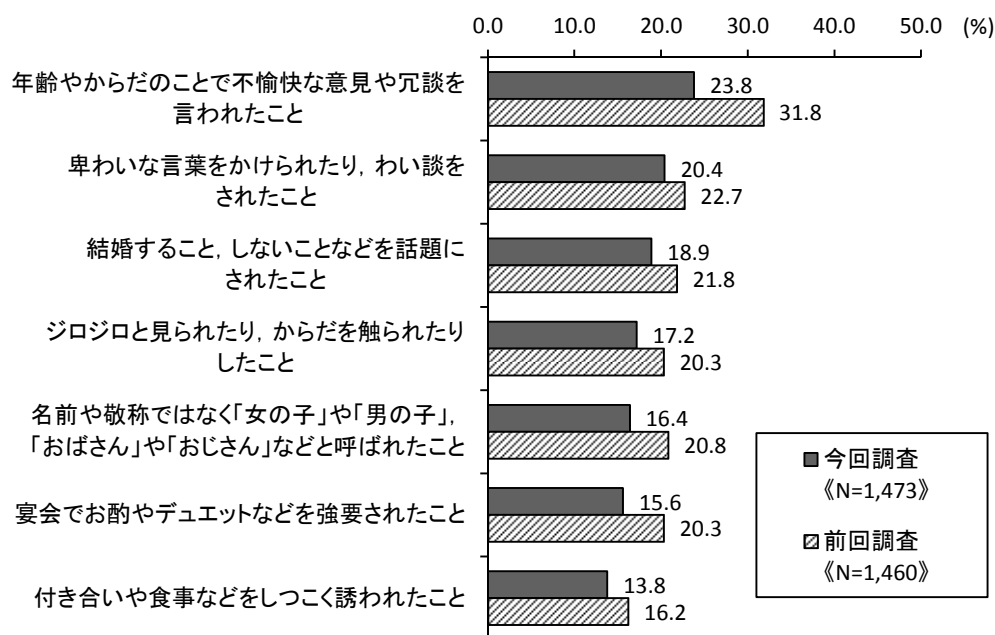
		1位	2位	3位
職場	全体	年齢やからだのことで不愉快な意見や冗談を言われたこと	卑わいな言葉をかけられたり、わい談をされたこと	結婚すること、しないことなどを話題にされたこと
	N=1,473	12.2%	11.6%	10.8%
	女性	卑わいな言葉をかけられたり、わい談をされたこと	年齢やからだのことで不愉快な意見や冗談を言われたこと	宴会でお酌やデュエットなどを強要させられたこと
	N=853	15.5%	14.3%	13.4%
	男性	結婚すること、しないことなどを話題にされたこと	年齢やからだのことで不愉快な意見や冗談を言われたこと	卑わいな言葉をかけられたり、わい談をされたこと
N=614	10.3%	9.3%	6.4%	
地域	全体	名前や敬称ではなく「女の子」や「男の子」、「おばさん」や「おじさん」などと呼ばれたこと	・結婚すること、しないことなどを話題にされたこと ・年齢やからだのことで不愉快な意見や冗談を言われたこと	
	N=1,473	6.0%		5.0%
	女性	名前や敬称ではなく「女の子」や「男の子」、「おばさん」や「おじさん」などと呼ばれたこと	結婚すること、しないことなどを話題にされたこと	年齢やからだのことで不愉快な意見や冗談を言われたこと
	N=853	7.0%	5.7%	5.4%
	男性	名前や敬称ではなく「女の子」や「男の子」、「おばさん」や「おじさん」などと呼ばれたこと	年齢やからだのことで不愉快な意見や冗談を言われたこと	結婚すること、しないことなどを話題にされたこと
N=614	4.7%	4.4%	3.9%	
その他	全体	年齢やからだのことで不愉快な意見や冗談を言われたこと	ジロジロと見られたり、からだを触られたりしたこと	卑わいな言葉をかけられたり、わい談をされたこと
	N=1,473	6.7%	6.4%	5.7%
	女性	・年齢やからだのことで不愉快な意見や冗談を言われたこと ・ジロジロと見られたり、からだを触られたりしたこと		卑わいな言葉をかけられたり、わい談をされたこと
	N=853		9.0%	8.1%
	男性	年齢やからだのことで不愉快な意見や冗談を言われたこと	名前や敬称ではなく「女の子」や「男の子」、「おばさん」や「おじさん」などと呼ばれたこと	ジロジロと見られたり、からだを触られたりしたこと
N=614	3.4%	3.1%	2.9%	

【前回調査との比較】

セクシャル・ハラスメントについて、前回調査と比べると、セクシャル・ハラスメントの経験は減少している。特に「年齢やからだのことで不愉快な意見や冗談を言われたこと」では大きく減少した。

セクシャル・ハラスメントについて、前回調査と比べ、全ての項目が下回っており、特に「年齢やからだのことで不愉快な意見や冗談を言われたこと」については今回調査が 8.0 ポイント下回り、『名前や敬称ではなく「女の子」や「男の子」、「おばさん」「おじさん」などと呼ばれたこと』、「宴会でのお酌やデュエットなどを強要されたこと」でも 4 ポイント以上下回っている。

セクシャル・ハラスメントの経験【今回調査, 前回調査】



(3) 配偶者や恋人からの暴力

問 19. あなたは過去2年間に配偶者や恋人から、①～⑤のような暴力(DV又はデートDV)を受けた経験がありますか。

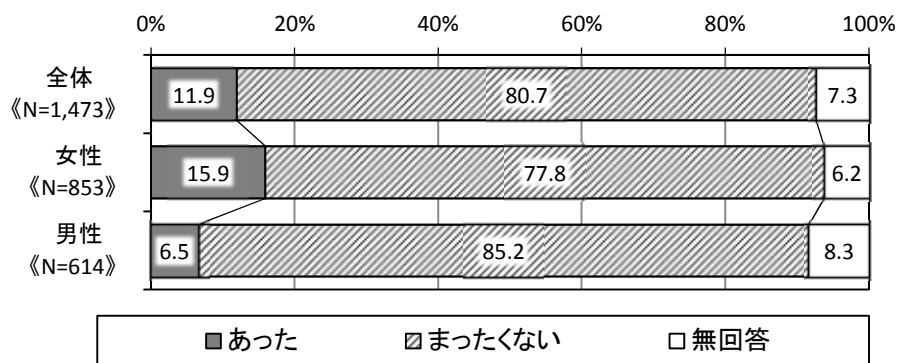
配偶者や恋人からの暴力について、過去2年間に暴力を受けた経験がある人は約1割で、女性が15.9%、男性は6.5%となっている。受けた暴力の種類を見ると、精神的暴力が最も多い。

【全体、性別】

配偶者や恋人からの暴力について、過去2年間に配偶者やパートナーから暴力を受けた経験は、「あった」が11.9%、「まったくなかった」が80.7%となっている。

性別では、「あった」と回答した人は、女性15.9%、男性6.5%で、女性の方が男性よりも高い。

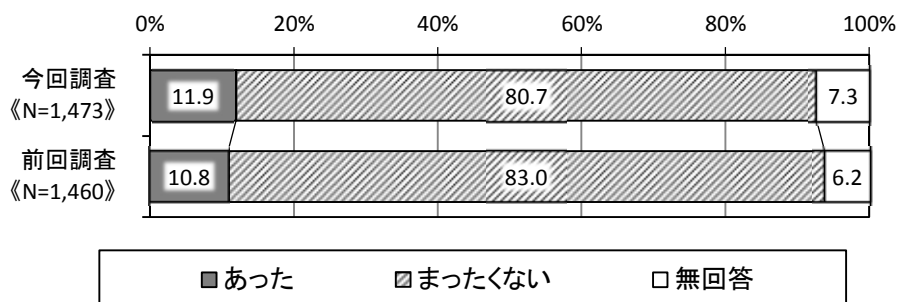
配偶者や恋人から暴力の経験の有無【全体、性別】



【前回調査との比較】

配偶者や恋人から暴力を受けた経験が「あった」と回答した人が前回調査より1.1ポイント上回っている。

配偶者や恋人から暴力の経験の有無【今回調査、前回調査】



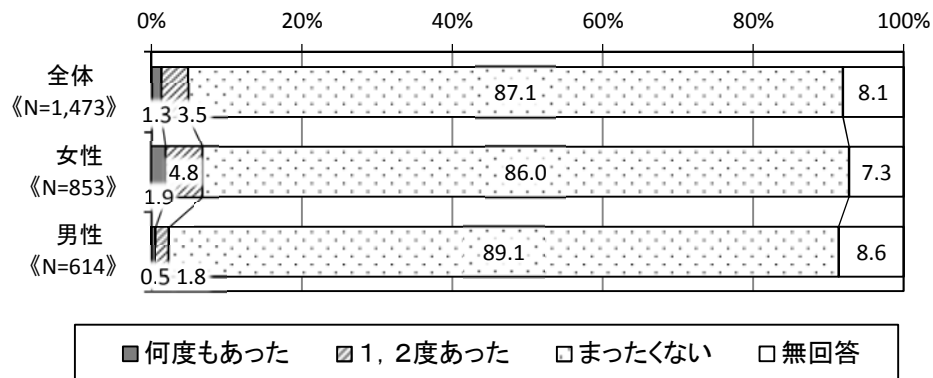
①身体的暴力

【全体、性別】

配偶者や恋人からの身体的暴力について、過去2年間に「何度もあった」が1.3%、「1、2度あった」が3.5%で、合わせて4.8%が身体的暴力を経験している。

女性では「何度もあった」が1.9%、「1、2度あった」が4.8%で、男性では「何度もあった」が0.5%、「1、2度あった」が1.8%で、女性が男性よりも身体的暴力を多く経験している。

身体的暴力の経験【全体、性別】



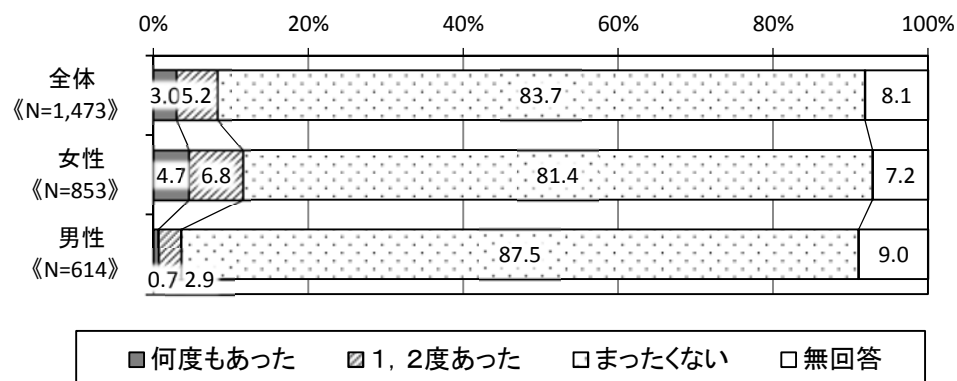
②精神的暴力

【全体、性別】

配偶者や恋人からの精神的暴力について、過去2年間に「何どもあった」が3.0%、「1、2度あった」が5.2%で、合わせて8.2%が精神的暴力を経験している。受けた暴力の内容のなかで、最も多い割合を占める。

女性では「何どもあった」が4.7%、「1、2度あった」が6.8%で、男性では「何どもあった」が0.7%、「1、2度あった」が2.9%で、女性が男性よりも精神的暴力を多く経験している。

精神的暴力の経験【全体、性別】



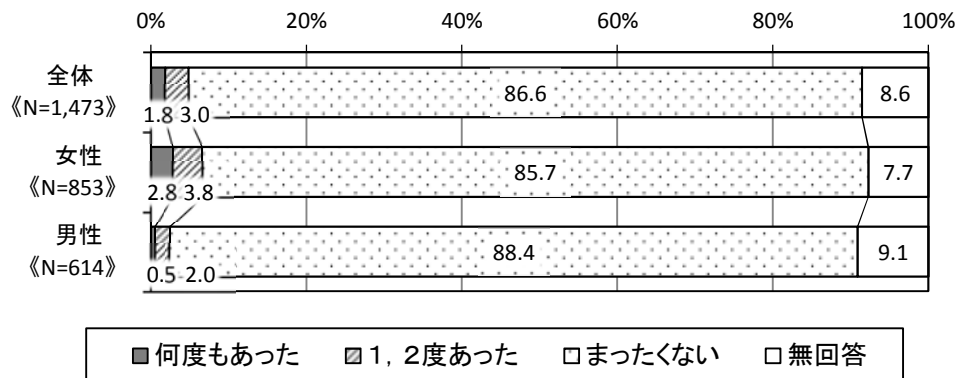
③経済的暴力

【全体、性別】

配偶者や恋人からの経済的暴力について、過去2年間に「何度もあった」が1.8%、「1, 2度あった」が3.0%で、合わせて4.8%が経済的暴力を経験している。

女性では「何度もあった」が2.8%、「1, 2度あった」が3.8%で、男性では「何度もあった」が0.5%、「1, 2度あった」が2.0%で、女性が男性よりも経済的暴力を多く経験している。

経済的暴力の経験【全体、性別】



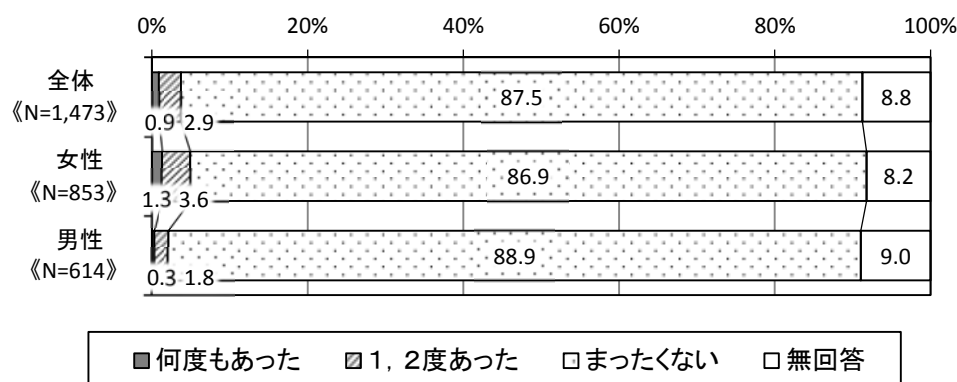
④社会的暴力

【全体、性別】

配偶者や恋人からの社会的暴力について、過去2年間に「何どもあった」が0.9%、「1, 2度あった」が2.9%で、合わせて3.8%が社会的暴力を経験している。

女性では「何どもあった」が1.3%、「1, 2度あった」が3.6%で、男性では「何どもあった」が0.3%、「1, 2度あった」が1.8%で、女性が男性よりも社会的暴力を多く経験している。

社会的暴力の経験【全体、性別】



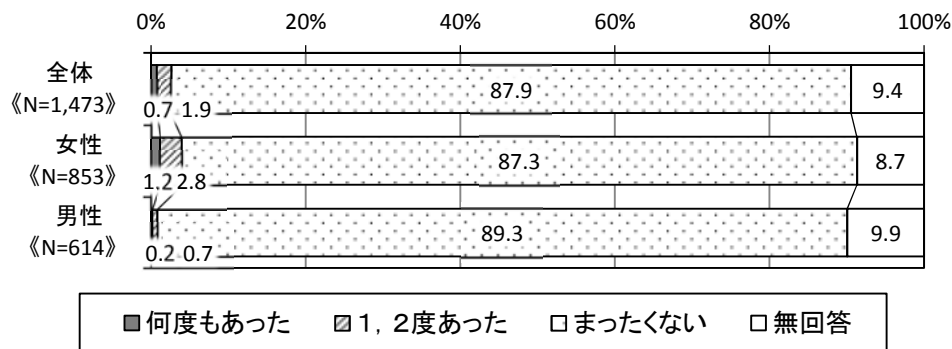
⑤性的暴力

【全体, 性別】

配偶者や恋人からの性的暴力について、過去2年間に「何度もあった」が0.7%、「1, 2度あった」が1.9%で、合わせて2.6%が性的暴力を経験している。

女性では「何度もあった」が1.2%、「1, 2度あった」が2.8%で、男性では「何度もあった」が0.2%、「1, 2度あった」が0.7%で、女性が男性よりも性的暴力を多く経験している。

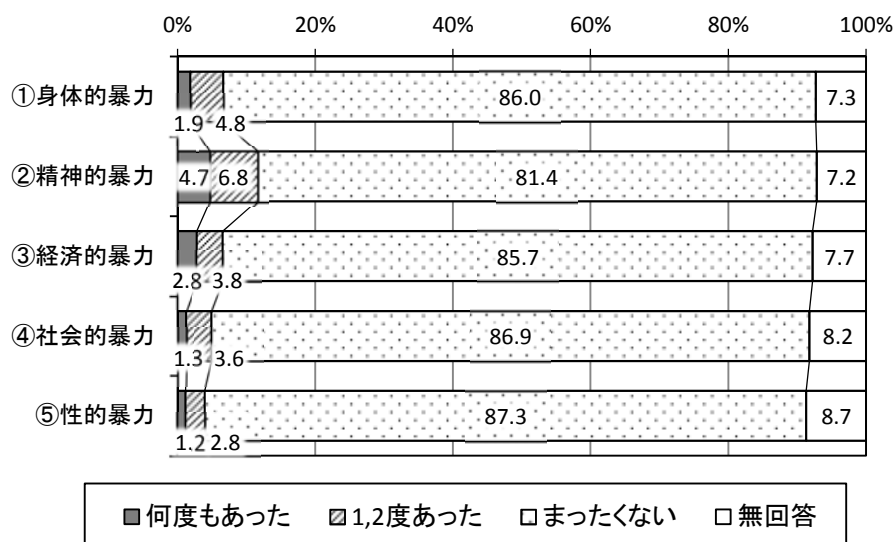
性的暴力の経験【全体, 性別】



⑥種類別に見た女性が暴力を受けた経験

配偶者や恋人から暴力を受けたことが『あった』割合は、「精神的暴力」11.5%、「身体的暴力」6.7%、「経済的暴力」6.6%、「社会的暴力」4.9%、「性的暴力」4.0%と、「精神的暴力」が最も高い。

種類別に見た女性が暴力を受けた経験 (N=853)



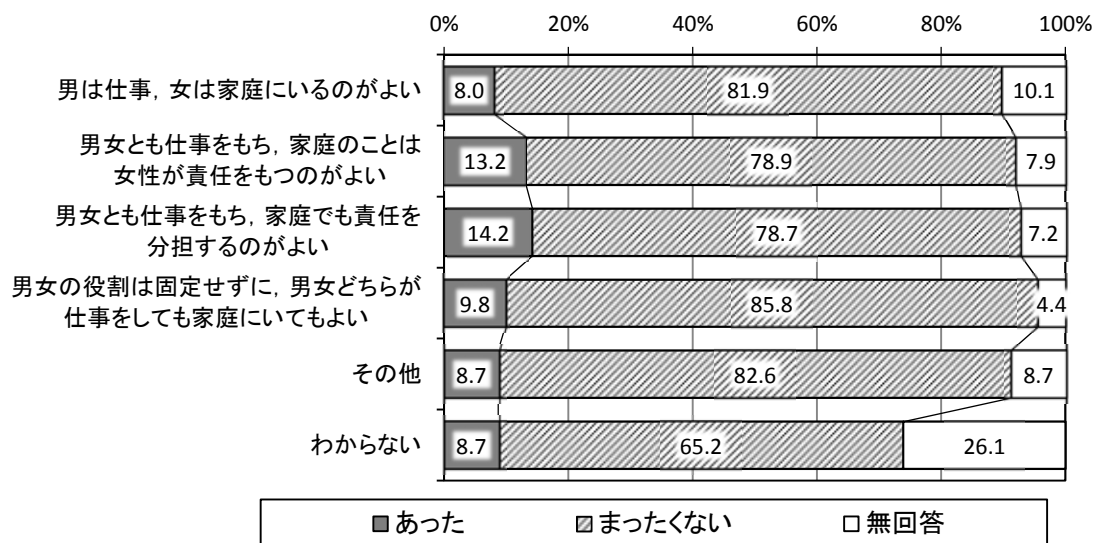
⑦性別役割分担意識とDVの経験

性別役割分担意識とDVの経験について、強い相関関係は見られなかった。

性別役割分担意識とDVの経験についてみると、「男女とも仕事をもち、家庭でも責任を分担するのがよい」が14.2%と最も高く、次いで「男女とも仕事をもち、家庭のことは女性が責任をもつのがよい」が13.2%、「男女の役割は固定せずに、男女どちらが仕事をしても家庭にいてもよい」が9.8%、「男は仕事、女は家庭にいるのがよい」が8.0%と続いている。

今回調査では、性別役割分担意識とDVの経験について、強い相関関係は見られなかった。

DVの経験【性別役割分担意識別】



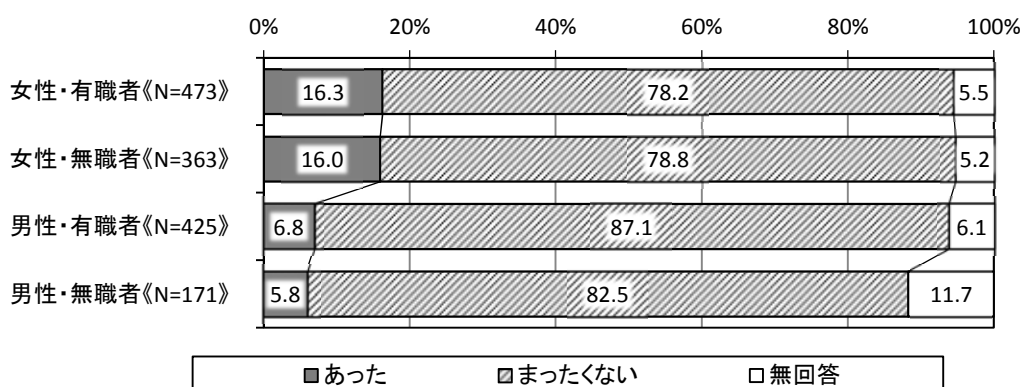
⑧性、職業とDVの経験

職業の有無とDVの経験については、大きな差は見られなかった。

職業の有無とDVの経験についてみると、女性では女性有職者が16.3%、女性無職者が16.0%と、大きな差異は見られない。

男性においても、男性有職者が6.8%、男性無職者が5.8%と、大きな差異は見られなかった。

DVの経験【性、職業の有無別】



(4) 配偶者や恋人から暴力を受けたときの相談

①相談の有無

問 19-1. あなたはこれまでに、配偶者等から受けた暴力について、誰かに相談しましたか。

配偶者や恋人から暴力を受けたときの相談について、暴力を受けた人の6割は誰にも相談しておらず、特に男性被害者の9割は、誰にも相談していない。

【全体】

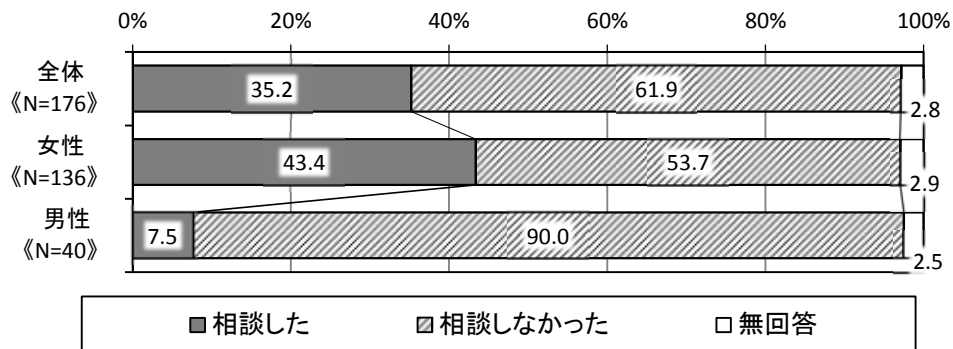
配偶者や恋人から暴力を受けたときの相談について、全体では、「相談した」が35.2%で、「相談しなかった」が61.9%と、暴行を受けた人の6割は誰にも相談していない。

【性別】

性別では、暴力を受けた時に誰かに「相談した」人は、女性は43.4%、男性は7.5%と、男女差が見られる。

【今回調査】

暴力を受けた時の相談の有無〈暴力を受けた人〉【全体、性別】

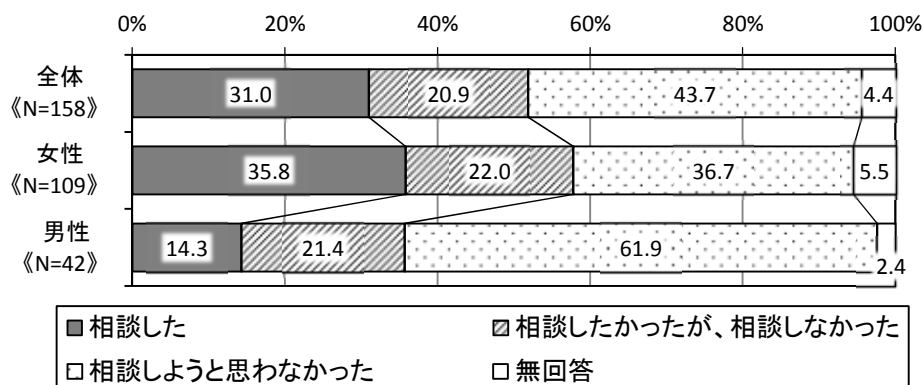


【前回調査との比較】

「相談した」人は、今回調査では前回調査よりも全体で4.2ポイント上回っている。性別でみると、「相談した」人は、今回調査は女性が7.6ポイントほど上回ったが、男性は6.8ポイント下回っている。

【前回調査】

暴力を受けた時の相談の有無〈暴力を受けた人〉【全体、性別】



②相談先

問 19-2. 相談した相手はどなたですか。〈複数回答可〉

暴力を受けたときの相談先は「親族」と「友人・知人」が多い。

【全体】

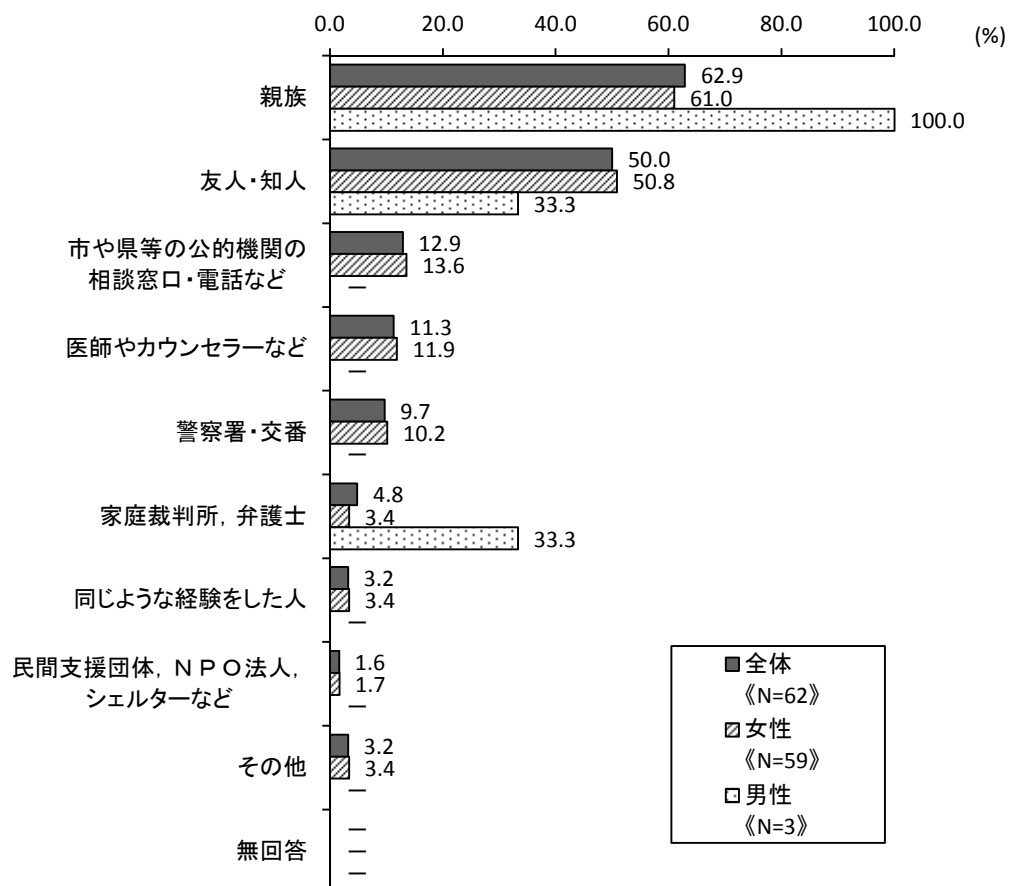
暴力を受けたときの相談先は、「親族」が62.9%で最も高く、次いで「友人・知人」が50.0%、「市や県等の公的機関の相談窓口・電話など」が12.9%となっており、「親族」および「友人・知人」が他を大きく上回っている。

【性別】

女性では、「親族」が61.0%と最も高く、次いで「友人・知人」50.8%、「市や県等の公的機関の相談窓口・電話など」13.6%と続いている。

男性は、「相談した」と回答した人が3名で、その相手は「親族」3名（全員）、「友人・知人」1名、「家庭裁判所、弁護士」に1名となっている。

相談先〈複数回答可〉【全体、性別】



【前回調査との比較】

配偶者や恋人から暴力を受けたときの相談先について、前回調査と比べると、「親族」への相談した割合は増加した。

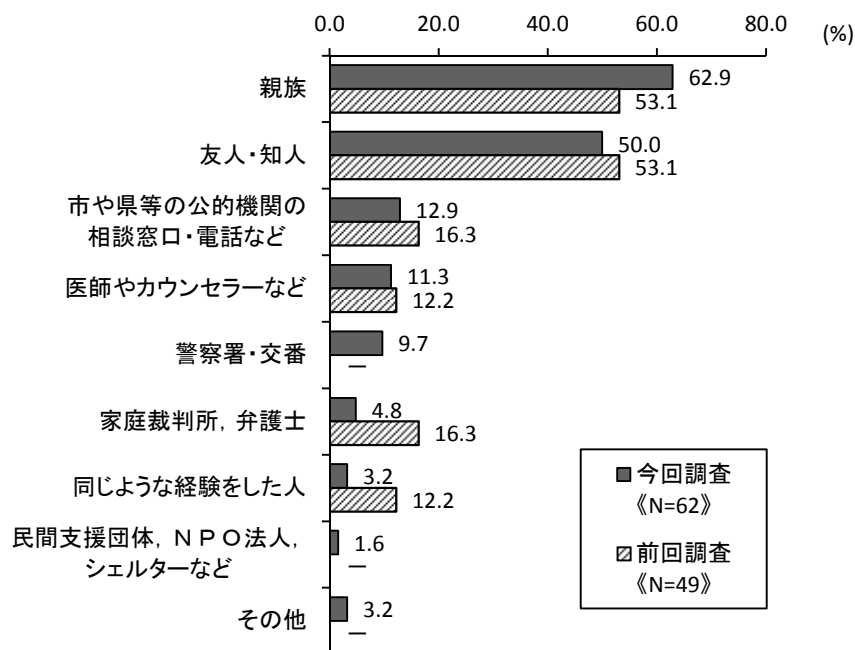
「家庭裁判所、弁護士」や「同じような経験をした人」への相談は減少している。

配偶者や恋人から暴力を受けたときの相談先について、前回調査と比べると、「親族」では今回調査が9.8ポイント上回り、「友人・知人」では3.1ポイント下回っている。

大きな違いが見られたのは、「家庭裁判所、弁護士」と「同じような経験をした人」で約1割前後減少している。

今回調査及び前回調査ともに「親族」と「友人・知人」への相談が5割以上と高くなっている。

相談先〈複数回答可〉【前回調査, 今回調査】



※前回調査では「警察署・交番」「民間支援団体、NPO法人、シェルターなど」の回答項目は無し

③相談しなかった理由

問 19-3. 相談しなかった主な理由は何ですか。〈2 つまで回答可〉

配偶者や恋人からの暴力を相談しなかった理由は、「相談するほどのことではないと思ったから」が約5割を占めている。

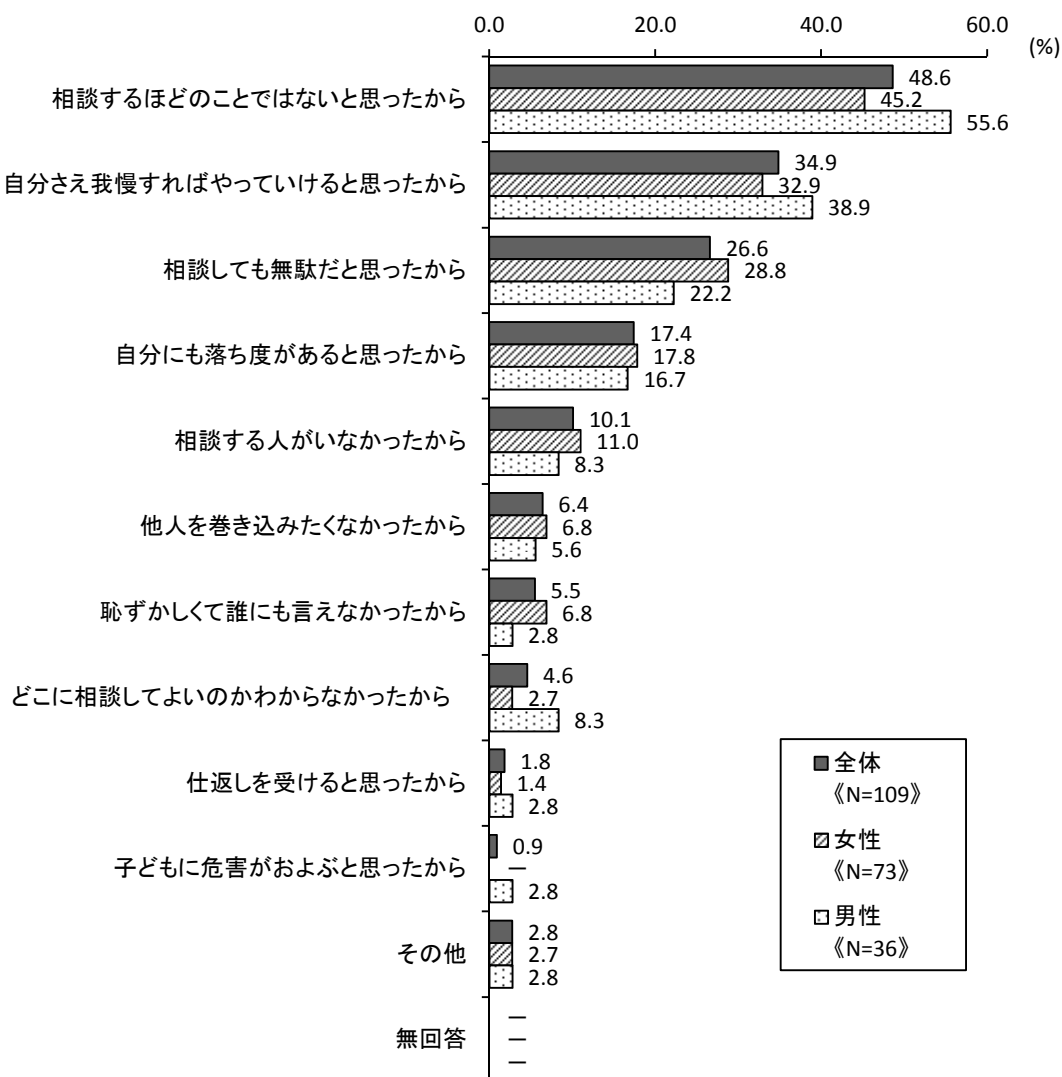
【全体】

配偶者や恋人からの暴力を相談しなかった理由は、「相談するほどのことではないと思ったから」が48.6%と最も高く、次いで「自分さえ我慢すればやっていけると思ったから」が34.9%、「相談しても無駄だと思ったから」が26.6%と続いている。

【性別】

男女ともに同順位の回答で、「相談するほどのことではないと思ったから」が最も高く、女性が45.2%、男性が55.6%となっており、次いで「自分さえ我慢すればやっていけると思ったから」で女性が32.9%、男性が38.9%、「相談しても無駄だと思ったから」で女性が28.8%、男性が22.2%と続いている。

相談しなかった理由 〈2 つまで回答可〉【全体、性別】

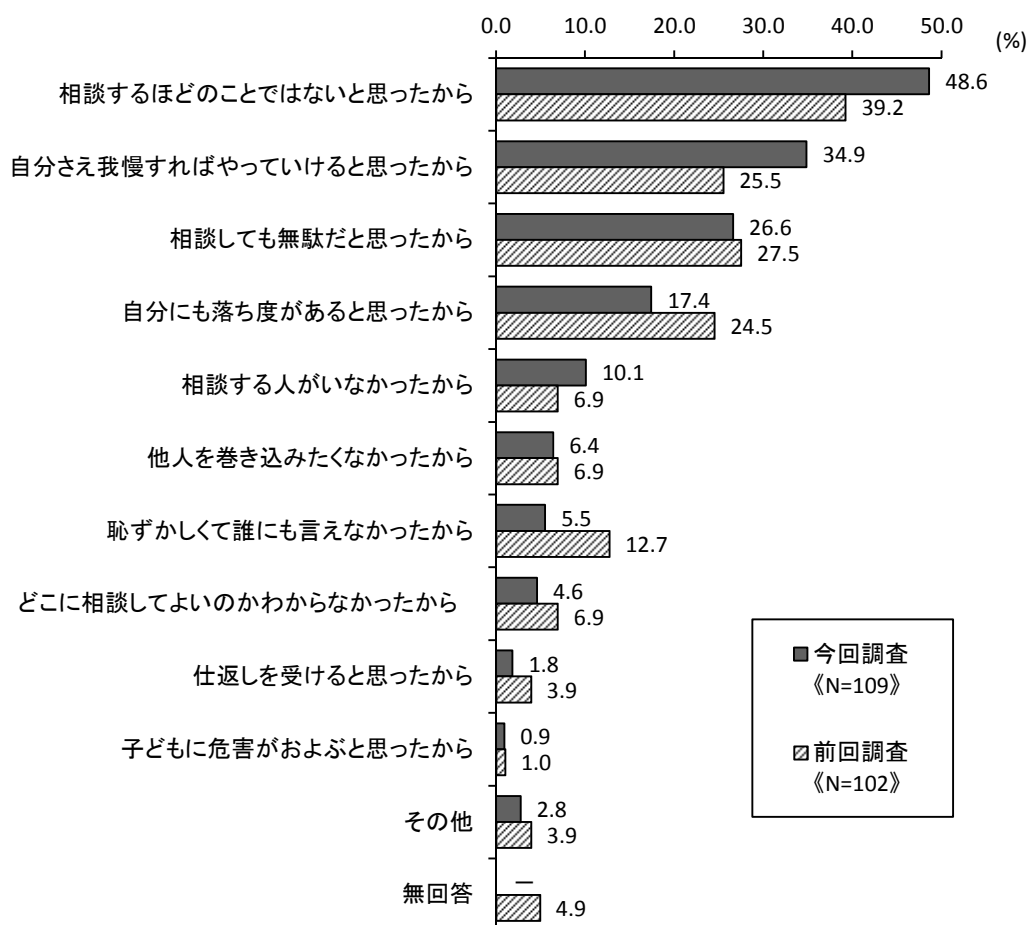


【前回調査との比較】

配偶者や恋人からの暴力を相談しなかった理由について、前回調査と比べると、「相談するほどのことではないと思ったから」と「自分さえ我慢すればやっていけると思ったから」の割合が、やや減少はしているものの、依然として高い。

配偶者や恋人からの暴力を相談しなかった理由について、前回調査と比べると、上位の「相談するほどのことではないと思ったから」と「自分さえ我慢すればやっていけると思ったから」は、今回調査が前回調査をともに9.4ポイント上回っている。反対に、「自分にも落ち度があると思ったから」と「恥ずかしくて誰にも言えなかったから」は、今回調査が前回調査よりも約7.0ポイント下回った。

相談しなかった理由〈2つまで答可〉【今回調査, 前回調査】



(5) 配偶者や恋人からの暴力を防止するために必要なこと

問 20. DVやデートDVを防止するためには、特にどのようなことが必要だと思いますか。
 〈2つまで回答可〉

DVやデートDVを防止するためには、「被害者が早期に相談できるよう、相談窓口を周知する」ことが最も必要だと考えている。

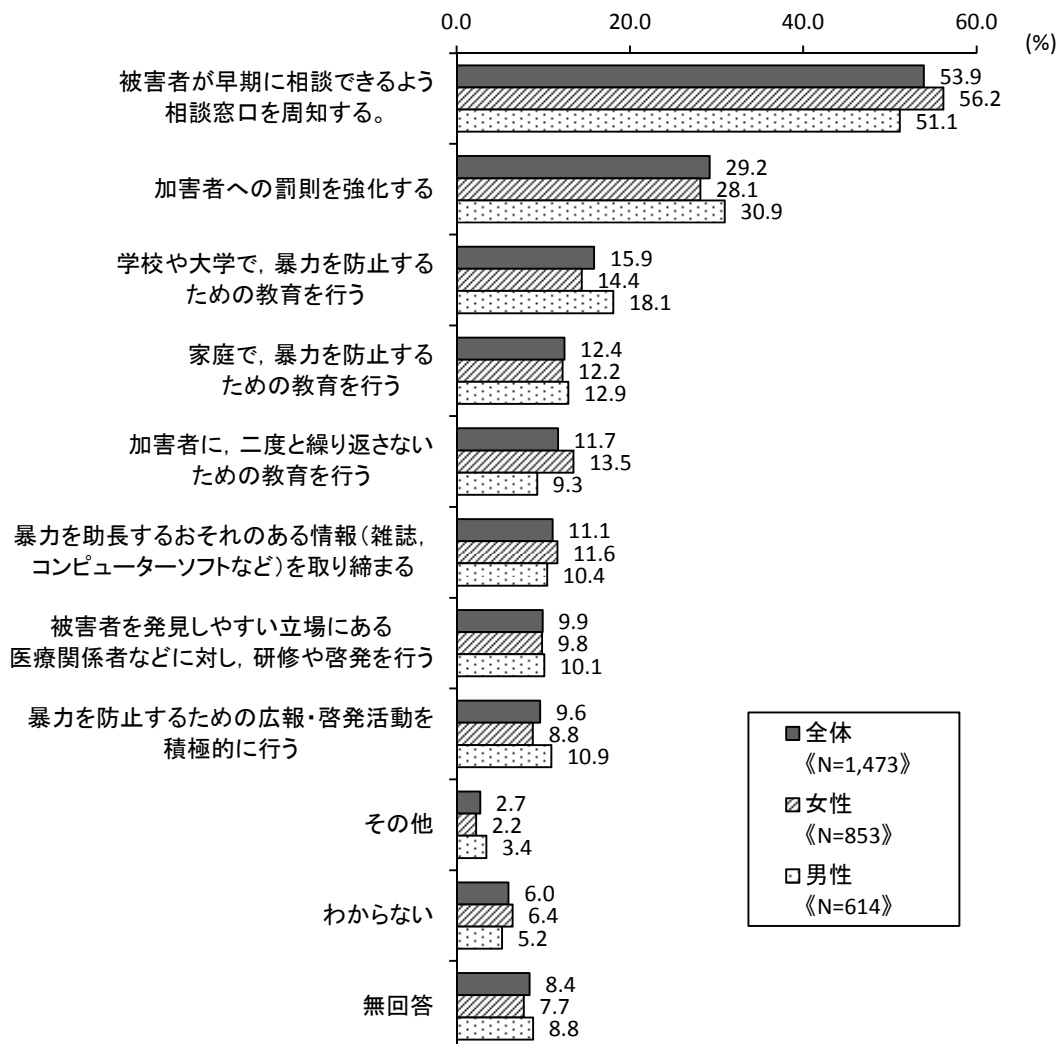
【全体】

DVやデートDVを防止するためには、「被害者が早期に相談できるよう、相談窓口を周知する」が53.9%と最も高く、5割以上が回答している。次いで「加害者への罰則を強化する」が29.2%、「学校や大学で、暴力を防止するための教育を行う」が15.9%と続いている。

【性別】

男女ともに1位から3位までは同順位の回答で、「被害者が早期に相談できるよう、相談窓口を周知する」が最も高く、女性が56.2%、男性が51.1%となっている。次いで「加害者への罰則を強化する」で女性が28.1%、男性は30.9%、「学校や大学で、暴力を防止するための教育を行う」で女性が14.4%、男性が18.1%と続いている。

DVを防止する為に必要なこと 〈2つまで回答可〉【全体、性別】



【DV経験別】

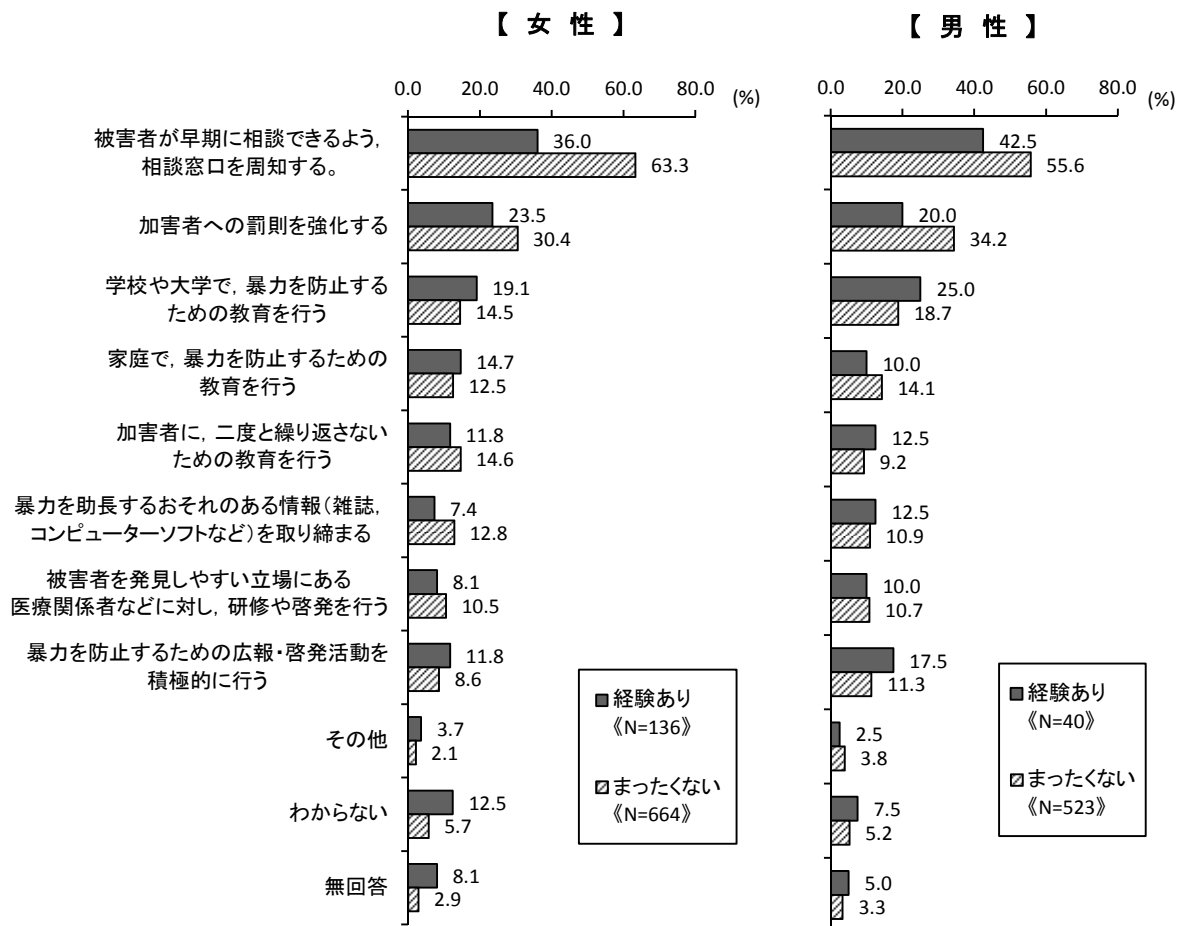
DV被害者が必要とする対策について、DV被害経験の有無にかかわらず、「被害者が早期に相談できるよう、相談窓口を周知する」が高い割合となっている。

【性別】

DV被害者が必要とする対策について、女性では、「経験あり」は、1位が「被害者が早期に相談できるよう、相談窓口を周知する」で36.0%、2位が「加害者への罰則を強化する」で23.5%、3位が「学校や大学で、暴力を防止するための教育を行う」で19.1%と続き、「まったくない」は、1位が「被害者が早期に相談できるよう、相談窓口を周知する」で63.3%、2位が「加害者への罰則を強化する」で30.4%、3位が「加害者に、二度と繰り返さないための教育を行う」で14.6%となり、「経験あり」と相違する。また、1位の「被害者が早期に相談できるよう、相談窓口を周知する」においては、「まったくない」が「経験あり」よりも27.3ポイント上回っている。

男性では、「経験あり」は、1位が「被害者が早期に相談できるよう、相談窓口を周知する」で42.5%、2位が「学校や大学で、暴力を防止するための教育を行う」で25.0%、3位が「加害者への罰則を強化する」で20.0%と続き、「まったくない」は、1位が「被害者が早期に相談できるよう、相談窓口を周知する。」で55.6%、2位が「加害者への罰則を強化する」で34.2%、3位が「学校や大学で、暴力を防止するための教育を行う」で18.7%となり、1位と2位の順位が相違する。また、1位の「被害者が早期に相談できるよう、相談窓口を周知する」については、女性同様に、「まったくない」が「経験あり」よりも13.1ポイント上回っている。

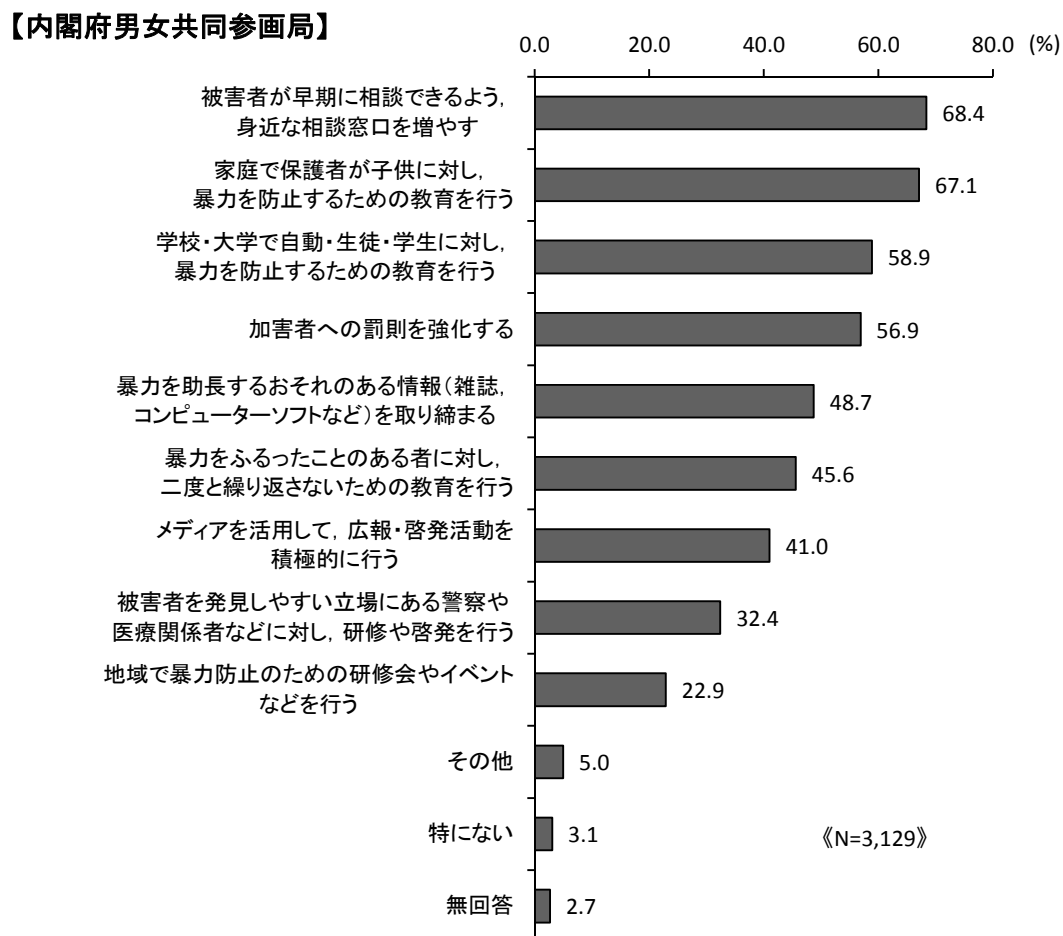
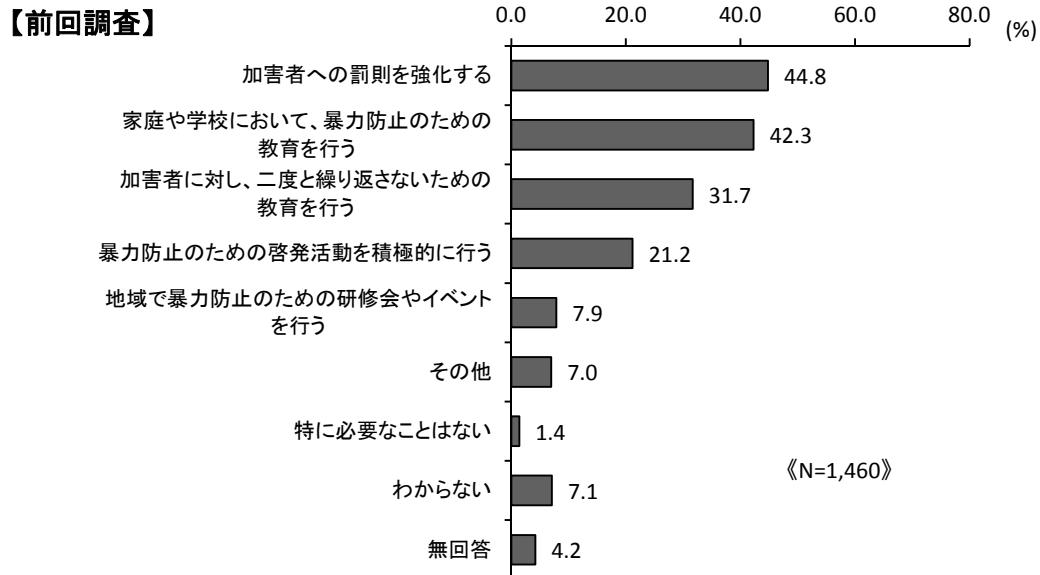
DVを防止する為に必要なこと〈2つまで回答可〉【性、DVの経験有無別】



参考

【内閣府男女共同参画局との比較】

DVを防止するために必要なこと
 【前回調査〈2つまで回答可〉, 内閣府男女共同参画局〈複数回答可〉】



8. 男女共同参画に関する施策について

問 21. あなたは、男女共同参画の実現に向けて、今後、宇都宮市は特にどのようなことに力をいれたらよいと思いますか。(2つまで回答可)

男女共同参画の実現に向けて、今後、宇都宮市が力を入れるべきだと思う施策は「保育・子育て・介護のための支援を充実する」が4割を占める。

【全体】

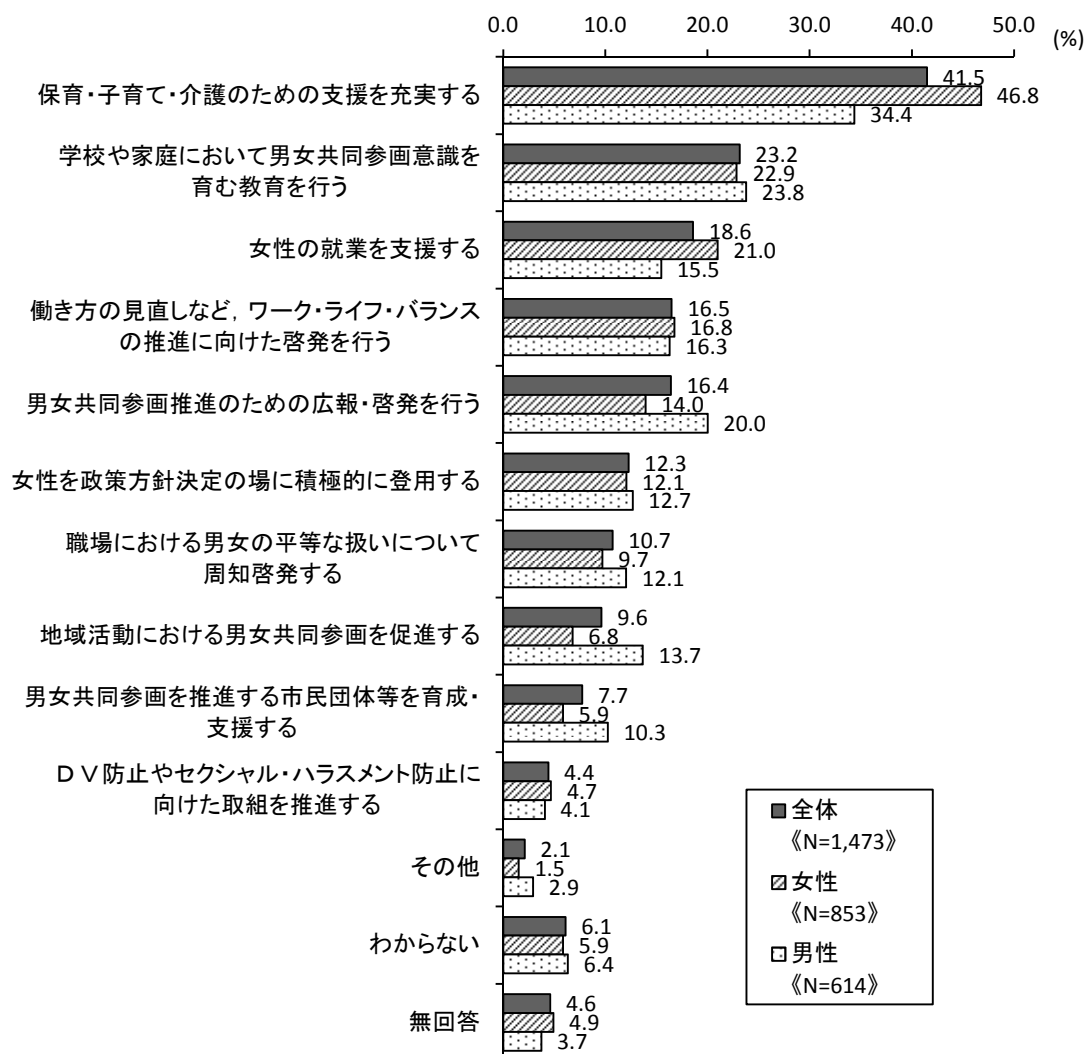
男女共同参画の実現に向けて、今後、宇都宮市が力を入れるべきだと思う施策は、「保育・子育て・介護のための支援を充実する」が41.5%と最も高く、次いで「学校や家庭において男女共同参画意識を育む教育を行う」が23.2%、「女性の就業を支援する」が18.6%と続いている。

1位の「保育・子育て・介護のための支援を充実する」は、他の項目よりも2割ほど高く、市民ニーズが特に高いことが伺える。

【性別】

男女ともに、1位と2位の項目は同じで、1位は「保育・子育て・介護のための支援を充実する」で女性が46.8%、男性が34.4%で、2位は「学校や家庭において男女共同参画意識を育む教育を行う」で女性が22.9%、男性が23.8%となっている。3位は、女性は「女性の就業を支援する」で21.0%、男性は「男女共同参画推進のための広報・啓発を行う」で20.0%と、男女に相違がある。

女共同参画に関する施策(2つまで回答可)【全体、性別】



【性, 年代別】

男女共同参画の実現に向けて、今後、宇都宮市が力を入れるべきだと思う施策のうち、「保育・子育て・介護のための支援を充実する」と答えた女性の割合は高く、特に、30歳代以下の若い世代が高い。

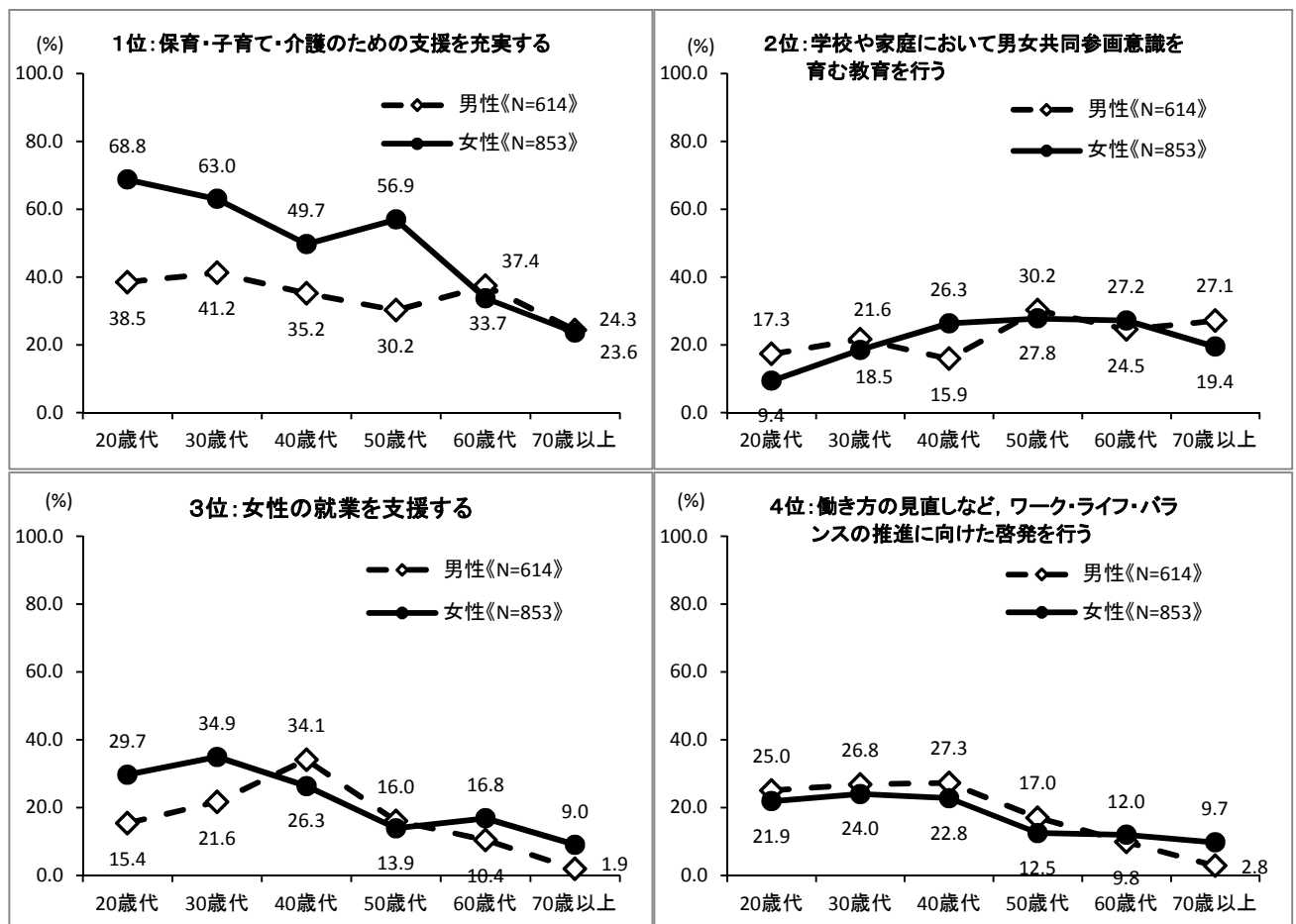
男女共同参画の実現に向けて、今後、宇都宮市が力を入れるべきだと思う施策のうち、1位の「保育・子育て・介護のための支援を充実する」では、「50歳代」までは女性が男性を上回り、60歳代以上ではほぼ同じとなる。概ね若い年代で高くなっている。

2位の「学校や家庭において男女共同参画意識を育む教育を行う」は、男女差が小さく、概ね50歳代と60歳代で高くなっている。

3位の「女性の就業を支援する」は、男女間で相違がみられ、女性は「30歳代」が最も高く、ほぼ年代が増すごとに低くなっており、男性では「40歳代」で最も高くなっている。

4位の「働き方の見直しなど、ワーク・ライフ・バランスの推進に向けた啓発を行う」は、男女間で大きな差異はないが、「20歳代」から「50歳代」で男性が女性よりも高くなっている。

男女共同参画に関する施策<2つまで回答可>【性, 年代別】上位4項目



※調査数

【女性】	20歳代 《N=64》	30歳代 《N=146》	40歳代 《N=167》	50歳代 《N=144》	60歳代 《N=184》	70歳以上 《N=144》
【男性】	20歳代 《N=52》	30歳代 《N=97》	40歳代 《N=88》	50歳代 《N=106》	60歳代 《N=163》	70歳以上 《N=107》

